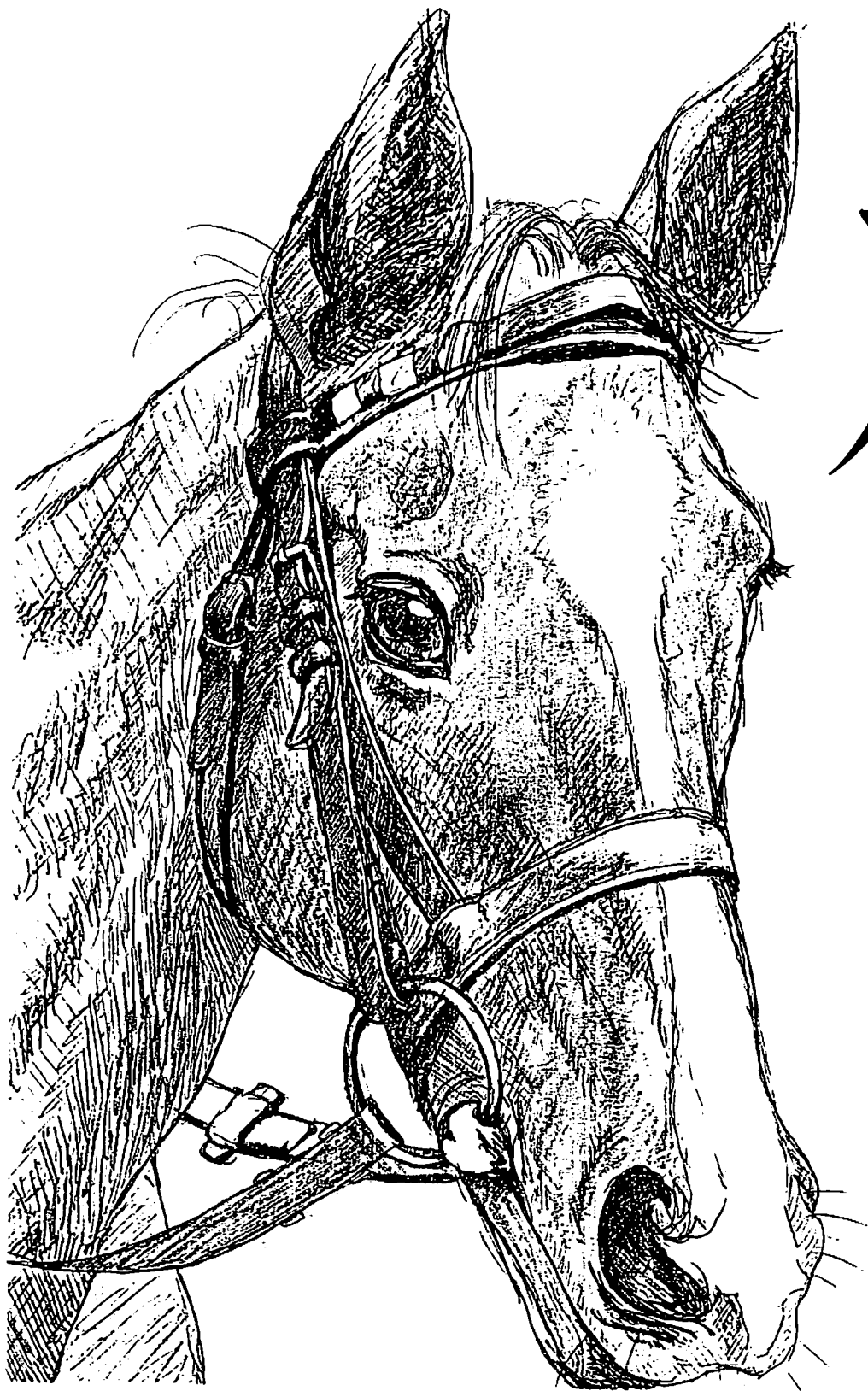


北 辰



平成5年度
NO. 39 部報

北大馬術部

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80

はるきたれば だいちはかーる、

しろがねのえんざん ゆめほうほうたり、

たからかにいまぞいなけ、われ

らしゅんめのほまれあり。

あるかぎり。ほくだいほくだい、お

わがほこう、われらしゅんめのほまれあり。

馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君作歌

一

春来たれば 大地光る
銀の遠山 夢花々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

二

時来たれば 旗をかざせ
青雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

三

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のはまれあるかぎり

北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のはまれあり



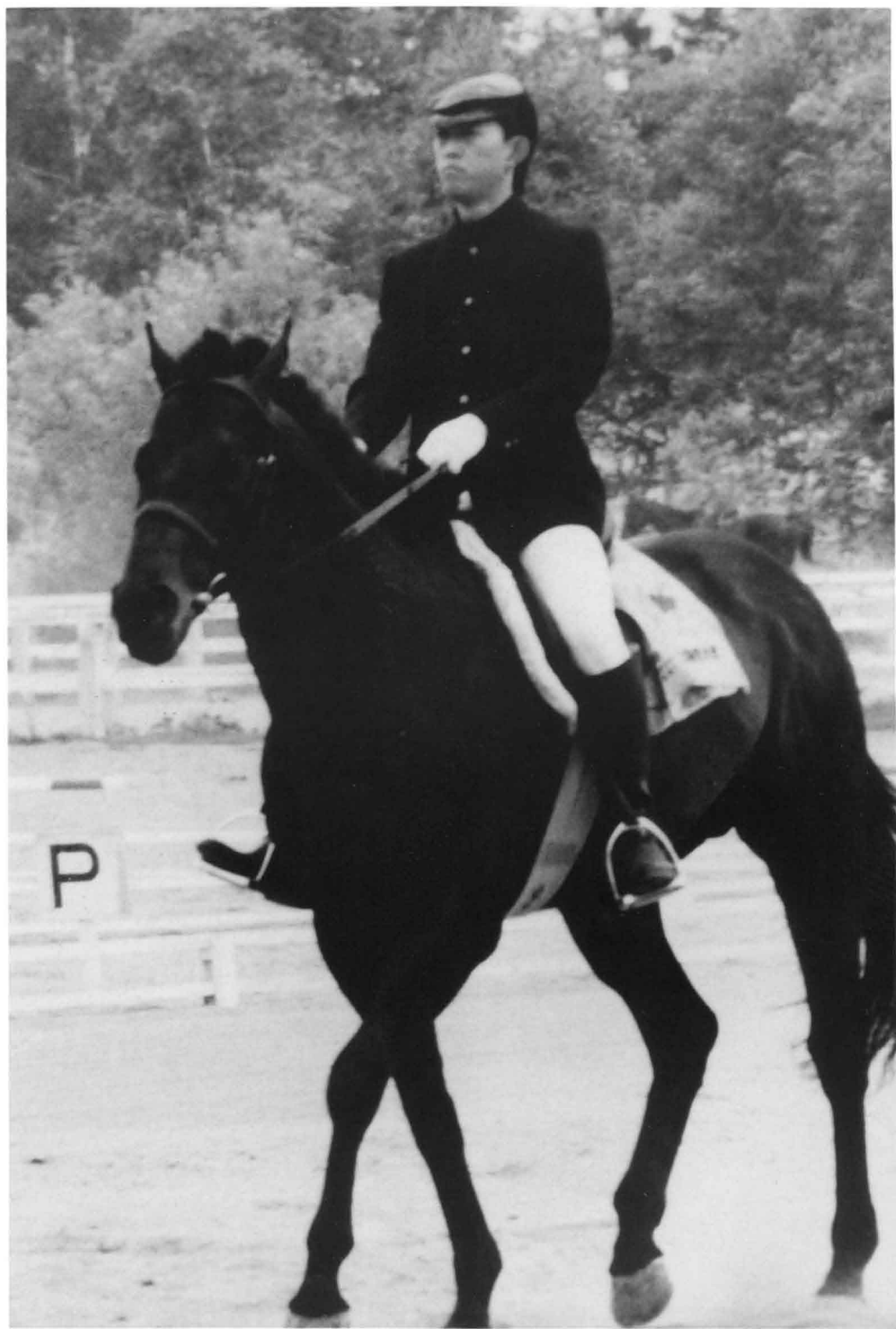
八木兄と北銀号



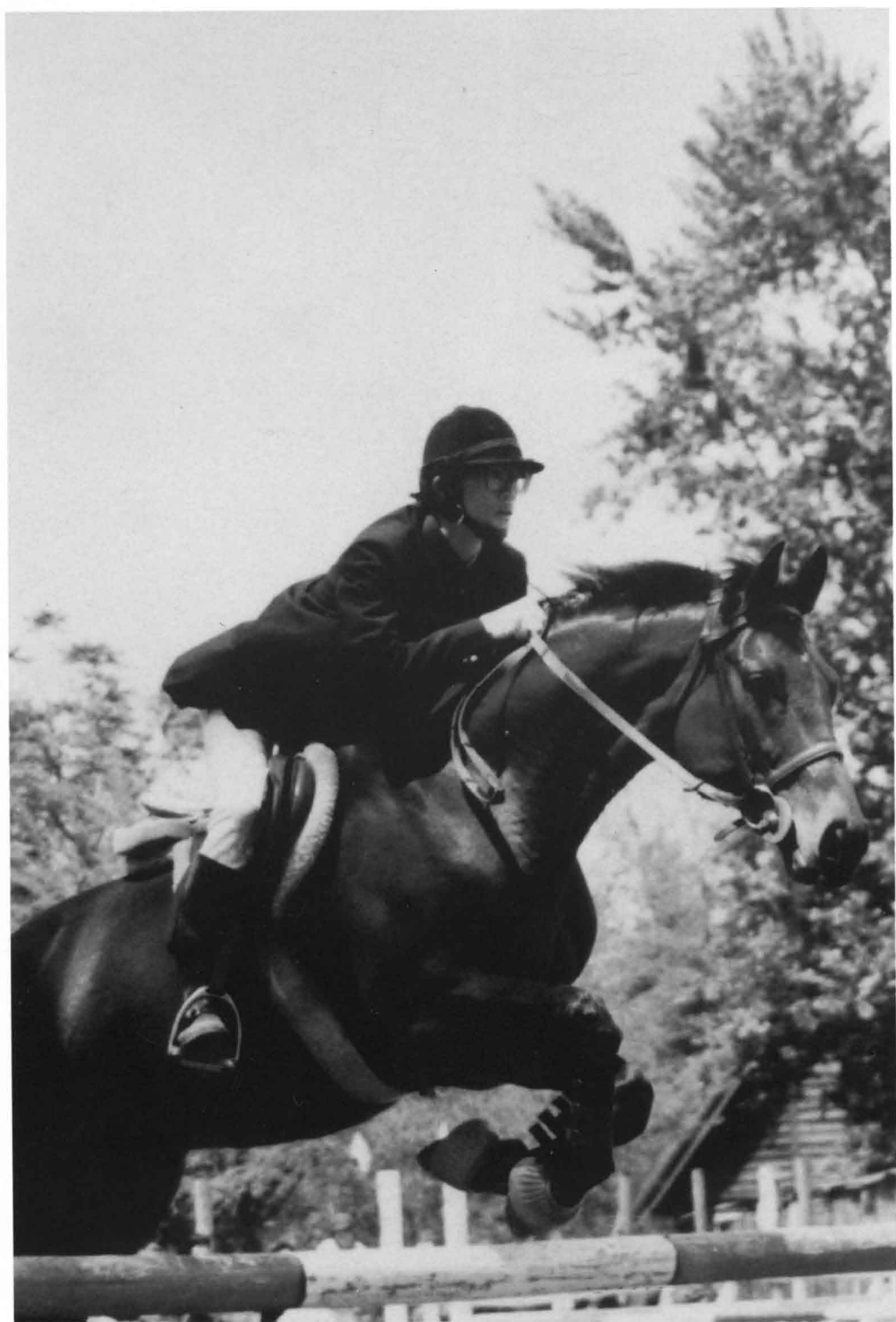
岡部姉と北玲号



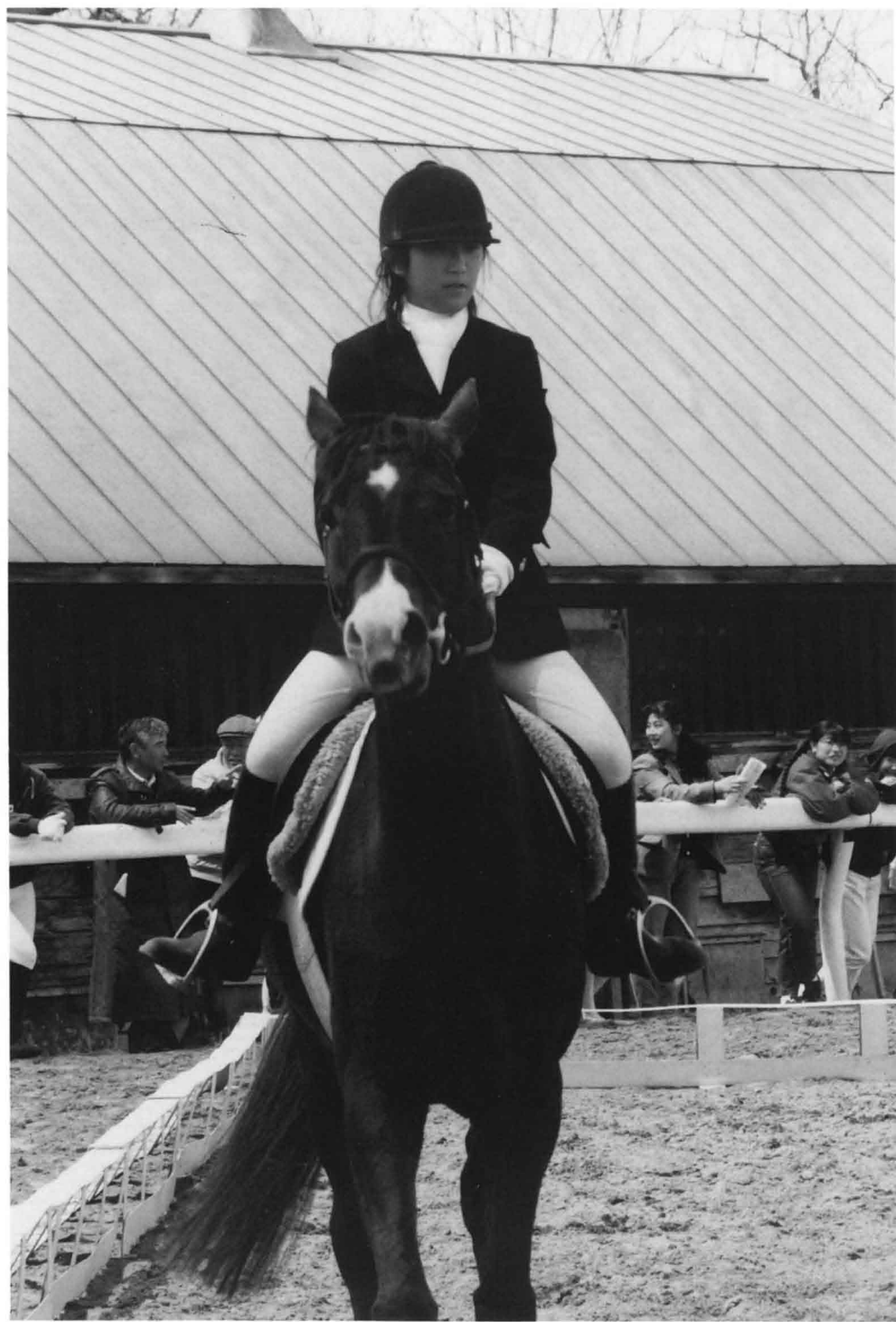
船越姉と北遥号



荒瀬兄とグレンエトワール号



佐土谷兄と北駿号



倉本姉とリンドクラウン号

目 次

巻頭言	・ ・ ・ ・ ・	・ 斎藤 善一	・ ・ ・ ・ 1
観客動員	・ ・ ・ ・ ・	・ 岡田 光夫	・ ・ ・ ・ 2
前主将より	・ ・ ・ ・ ・	・ 八木 聡	・ ・ ・ ・ 3
現在のクラブ状況	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ ・ 4
会計報告	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ ・ 7
行事報告	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ ・ 8
戦績報告	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ ・ 9
北水活動報告	・ ・ ・ ・ ・	・ 佐土谷 昌良	・ ・ ・ 2 1
《調教報告・馬匹紹介》			
北 銀号	・ ・ ・ ・ ・	・ 八木 聡	・ ・ ・ 2 2
北 玲号	・ ・ ・ ・ ・	・ 岡部 靖子	・ ・ ・ 2 4
北 駿号	・ ・ ・ ・ ・	・ 深部 ちさ	・ ・ ・ 2 6
北 瑛号	・ ・ ・ ・ ・	・ 黒崎 雅人	・ ・ ・ 2 8
グレンエトワール号	・ ・ ・ ・ ・	・ 荒瀬 匡宗	・ ・ ・ 3 1
明日松号	・ ・ ・ ・ ・	・ 松原 貴史	・ ・ ・ 3 3
ファストバロン号	・ ・ ・ ・ ・	・ 谷地 織	・ ・ ・ 3 7
北 遙号	・ ・ ・ ・ ・	・ 船越実和子	・ ・ ・ 3 8
北 凌号	・ ・ ・ ・ ・	・ 横山 勉	・ ・ ・ 4 1
北 鷲号	・ ・ ・ ・ ・	・ 鶴見 直大	・ ・ ・ 4 7
《新馬紹介》			
北旋風号	・ ・ ・ ・ ・	・ 杉野 正之	・ ・ ・ 4 9
フライト号	・ ・ ・ ・ ・	・ 河合 由枝	・ ・ ・ 5 0
《離厩報告》			
パシオンM号	・ ・ ・ ・ ・	・ 西村 雅夫	・ ・ ・ 5 1
北皇子号	・ ・ ・ ・ ・	・ 鎗木 照夫	・ ・ ・ 5 2
東京OB会便り	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ 5 5
特集 OBの輪	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ 5 7
卒部にあたって	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ 6 6
自己紹介・他己紹介	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ 6 8
OB名簿	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ 8 3
現役部員名簿	・ ・ ・ ・ ・		・ ・ ・ 9 5

巻 頭 言

齋藤 善一

昭和63年4月に小池壽男先生の後を引き継いで第9代部長となって6年が経過しました。本年3月31日限り停年退職となるので部長も終ります。長いような、アツというまに過ぎたような、丁度よい長さであったかと思います。この間、半沢先生、岡田監督をはじめとして、OB、OGの皆様および部員諸君の御盡力を得て、順調に部が運営されてきたことは大変有難く、感謝致しております。

過去の例を見ると、部長交替の年は好成績であると思っておりましたが、私が部長になった年は全日本学生馬術大会で総合団体3位となり嬉しいことでした。しかし、もっとも嬉しかったのは、部の存亡にかかるような事故がなく、部長がかけずり廻るような事態に至ることがなかったことです。もっとも、個人的には大怪我をした部員もあり、当人は勿論、御両親も心痛されたことと申し訳なくしております。

折角、馬術部長になったのですから、時々練習に参加したいと思いながら時間の使い方が下手でそれもできず、年2回の試乗程度に終わったのは残念です。それでも、今年の初乗りで学内を一周したことはよい思い出になりました。

次の部長は昭和37年主将であった市川瑞彦氏（理学部）です。同氏は4月1日付で昇格されることが確定したので、首尾よく引継ぐことができました。いろいろな場合を想定し、やむ無く最後まで次の部長を明確にしなかったのも、OBや部員に心配をかけました。市川新部長のもとで新しい指導体制がとられ、発展することを心から願っております。

これから、馬術部にとって落着かない日々が続くようになるかも知れません。それはキャンパス内を通る北18条通りの拡張、トンネル化によるものです。札幌市は、かねがね北18条通りを整備し、競馬場横の道路と接続させる計画をもっていました。北大構内をトンネルとし、その上を緑地公園とする計画を再び北大に申し入れて来ております。大学側は検討中ですが受入れるだろうと私は思います。馬場の南側は地下に進入する部分となるでしょう。馬場の南端部分は使用できなくなるので、その部分の面積に相当する場所を確保する必要があります。工事中は騒音、振動など、部にとっても馬にとっても好ましくないことが多いと思いますが、将来のためにも快く協力して欲しいと思います。

さて、馬術部長としては事故の無いことを第一に願っておりましたが、部長でなくなると、途端にOBとして馬術部の優勝を第一に願わずにはおられません。部員諸君が勝つために一生けん命練習をしていることはよく判かりますが、全日本学生馬術連盟のランキングでも、もうすこし上位に進出して欲しいと思います。学生時代はいろいろとやってみる時であると思いますが、諸先輩の意見も参考に自分に合った馬術を会得するように頑張って下さい。岡田監督は、北大予科がインターハイで優勝した時を振り返って、勝ちたいという執念が実力以上の力を発揮させたのではないかと述べておられますが、含蓄のあるお話です。

私は今迄どおり札幌におりますので、時には乗せて頂き度いし、試合にもなるべく応援に出掛けたいと思っています。これからもよろしく願い致します。

最後に、もう一度、お世話になった方々に感謝申し上げ、さらに北大馬術部の一層の発展、活躍を祈念して終わりと致します。

観 客 動 員

岡田 光夫

今冬ノールウェイのリレハンメルで開催された冬季オリンピックのTVを見た方は、日本選手の今までの様に「祖国のためによい成績を取らなければならない」「皆の期待に沿える成績を取らねばならない」と云った力みは少しもなく平常心以上にリラックスして実力どおりの成果を治めた事は御承知の事と思う。その中であんなに多い観客の中で競技が出来た事が、非常なはげみになったと云っていた選手が居た。競技に見物客が多く応援の声が多いことで逆に畏縮してしまった過去の例から云えば現代っ子だからと云い得ない感慨をもった。

実際何所から集まってきたのか、まるで地からわいてきた様に続々と競技場に急ぐ観衆を見ると何か圧迫感さえ感じた。

冬季札幌オリンピックの時仕事柄観客を動員するための道路建設に精魂を傾け予め計画された道路がどの様に利用されたか、どれだけ役に立ったかを見るために競技場の外で気をもんでいた事が昨日の様に思い出される。

いくらヨーロッパは陸続きで国境を越えて同好の士が集まりやすいと云っても、観衆がスポーツの内容を理解し、心から競技を楽しんでいる様子には全く驚きの外はなかった。その原因は北欧の人が冬の戸外のスポーツに深い理解を持ち積極的に外に出る習慣があるからだと云ってしまえばそれだけだろうが、それよりも何よりも競技場が本当に見る人の側に立って作られて居り、競技を見やすく作られていた事が私にとって非常に参考になった。一番興味を引かないのではないかと想像していた距離競技のコースの設定がスタート点で選手を見送ればあとはゴール地点でなければまたお目にかかれない様な日本のコース設定とは違ってコース上でせり合って競技する選手の姿が何カ所かで見られる事があの様な観客を集める一つの原因であろうと思った。

この距離に匹敵するのが馬術で言えば野外騎乗であろう。理想を云えば競技場を一望におさめて競技全体を見える様なコース設定が出来て、ゴールを切った選手が防護帽をとったらうら若い女性であったりしたら猶一層観客に受ける事と思う。

この様な事を書いたのも現在の馬術競技に限られた関係者が見に来てくれるだけで、何とか人が集まらないのかと常日頃考えているからである。この二三年急に盛んになりプロ野球にとって驚異になっているサッカーの試合の人集めのノウハウを知りたいものである。かつて馬術大会を大通公園や坂下グラウンドでやった時は人が集まったものだった。

前主将から

八木 聡

自分の4年間のクラブ生活を振り返ると、あまりにも勝つことにこだわりすぎたように思う。確かに勝つことを目標にやってきたし、これからも目標にするのだろうが、それだけでこのクラブが成り立っているわけではなかった。馬の調教、人の育成、これらは伝統の中にあって絶えず変化するものであり、このことを1年、いや5年10年の長期的な視野で考えるべきであった。当たり前の事ではあるが、それを表面的にしか考えられなかったところに自分達の敗因があったと思う。チーム意識やチームの和が、なぜ必要なのかはここから生まれてくるものであり、決して勝つための必要性から生まれてくるものではなかった。人馬を育てる環境として何が一番大切なのか、このことを追求するクラブがいいクラブであり、結果だけを重視するクラブがいいクラブではない。勝つために表面的にクラブを考えているのでは、自分達の二の舞になることは目に見えている。

現在では部活動に対する部員の意識は多様化している。その多様化の中でいいクラブを作るためには、やはり主将が部員をまとめるしかないであろう。何が正しくて何が間違っているというものがないかもしれないが、自分の考えの方が正しいのだといって各個人が勝手な舵取りをすれば、クラブという船は前には進まないだろう。チームの和の必要性はここに生じてくるのであり、そこからチーム意識が叫ばれるようになる。チームのためだといって、個人が好き勝手なことを主張してはならない。飽くまで、チームという船が前へ進むために後押しするだけにとどめるべきである。そのために今クラブがどのように進んでいるのか、皆はどのように考えているのか、部員一人一人が知る必要があり、そして自分はクラブのために何ができるのか考える必要がある。自分のクラブである前に皆のクラブであるという認識が大切であり、自分のことだけでなく他人の努力も後押しする勇気を持ってほしい。

普段のクラブの接し方は、練習にも現れてくると思う。すでに勝つという目標をおいている以上、時間との戦いも始まっている。このことは、初心者から馬術を始める自分らに与えられた課題でもある。短期間で力をつけるために、何をするにも速やかに行動できなくてはならない。しかも少ない練習で大きな効果を求めなければならない。何気ない動きでも必ず課題をもってやること。動くからには、ただこなす動きではなく考えた動きが必要である。それが必ず試合に役立ち、なおも権利を取るという大きな未来にもつながる。つまり練習のための練習ではなく、試合のための練習をちゃんと考えなければならない。また考えた動きにおいて全力を出しきれば、集中力をも養うことができる。いい加減な練習は人を何事からも散漫にしまい、大きな事故へとつながってしまう。

今まで長々と書いてきたが、思うことと実行することでは天と地ほどの違いがあり、くじけず頑張らないと意味がなくなってしまう。全日学へ行くという、プレッシャーにしかならない声はこの際聞き流して、今できる最大限の努力を積み重ねてほしいと思う。勝つということは、決して他人より強くなるということではなく、自分との戦いであり、自分に対して強くなってほしい。大きな感動を手にした時、本当に馬術が楽しいと感じられれば、これ以上の幸せはないだろう。

最後に、岡田監督、斎藤部長をはじめOB・OGの皆さんには大変お世話になりました。1年間本当にありがとうございました。この場をかりて深く御礼申し上げます。

現在のクラブ状況

《主将より》

松原 貴史

この伝統ある北大馬術部の再建に向け、部員一丸となり、がんばっていきます。

〔再建案〕

☆馬の気持ちを察してやること。

- ・馬が何を考えているのか。
- ・なぜ、手入れ中にうるさいのか。
- ・なぜ、驚いたのか。
- ・どうして、かみつこうとするのか。

部員が馬に対して、もっと敏感になることが必要。

☆自分に対して厳しくなること。

- ・騎乗面での自分の欠点を直すこと。
- ・なぜ、人は上手くできるのに自分はできないのか。
- ・どうして自分が乗ると、馬が動かないのか。
- ・どうして、安定して乗れないのか。

部員が、自分で自己分析ができ、直そうとする、どん欲さが必要。

☆チーフ（運動責任者）としての責任を持つこと。

- ・馬が良くなるのも、悪くなるのもすべて自分の責任であること。
- ・一頭の馬を管理するにあたり、自分を含め、サブである下級生に対して、厳しく管理させる。
- ・騎乗面に対して、人馬の関係をしっかり作り、約束事を作っておくこと。
- ・適切な判断力をもち、馬のリズムを覚えること。
- ・障害姿勢の確立、障害を飛ぶときの、馬のリズム、コブシにかかる力関係を知る。
- ・騎手の精神面での訓練（良い緊張感で試合に望むことができる） e t c

上記のことを、重点にして、指導を行っています。

現在、部員21名、馬の頭数12頭であり、全日本に何回も出場して、北大のエース馬として活躍した北皇子も離厩。これからの真価が問われる年だと実感しています。代替わりしてから、9月～12月までの間に、2年生の障害飛越の技術向上を計り、数多くの経路回りをを行い、また、試合にも出場させている。団体をめざすには、2年生のバックアップが必要だと感じたからだ。また、年末年始に行う冬合宿では、部員の競争意識を高め、各自の欠点をさらけ出し、ミーティングで徹底的に追求した。これにより、練習意欲が増した。

ここからが勝負だと感じ、「やってやるぞ」という気持ちとは裏腹に、この時期の重要性を考えると、思わず胸の高まりを感じる。1年の時から、数多くの先輩方のやり方を見てきて、自分なりに良し悪しの判断力も見についているはずだから、最良の策を取っていきたい。

オレたちは、絶対勝ちたい！

失敗は許されないのだ。自分自身、全日学に団体出場できない、つらさ、一人で行くことのさびしさは、昨年、痛感した。部員意識を高め、団体を組むことのすばらしさを経験したい。こんな、現役部員ですが、これからも、よろしくお願いします。最後に今年の特日学をめざす人馬を下に記しておきます。

北銀	黒崎雅人	3年	総合
北玲	米家直子	2年	総合
北駿	深部ちさ	3年	二走・総合
北瑛	河合由枝	2年	賞典馬場
グレンエトワール	松原貴史	3年	総合
明日松	松原貴史	3年	二走・総合
ファストバロン	谷地織	2年	二走・総合
北遥	杉野正之	2年	
北凌	西村雅夫	3年	総合
北鷲	鶴見直大	2年	
北旋風			
フライト	鎗木照夫	2年	総合

《主務より》

黒崎 雅人

主務は毎年仕事の量が膨大であったため、今年は後援会や副務に仕事を分担するようにしました。しかし本人の努力不足のため、暇であるシーズンオフにも関わらず決して仕事は速いとは言えないので、今後は手早くかつ確実にやっていきたいと思ひます。

これからもよりよい運営をめざしていきますのでお気づきの点などございましたら、ご指導下さるようお願いいたします。

学生部関係

現在学生部とは非常に良好な関係にあるといえる。学生部とは学生の活動を規制するのではなく、課外活動を支援してくれているので、学生側が義務を守らなければいけない。

今年は馬房の裏戸を全面的に修理していただいた。また体育館横の空地の工事のため構内への入り口が使用不能となったが、この時もいろいろとお世話になりすぐに他の入り口を手配していただいた。

今後ともこの関係を保つために努力していきたく思ひます。

アルバイト関係

現在の馬術部の収入の半分は部員のアルバイトによってまかなわれています。主なアルバイト先

は、競馬場・モモセ・長岡さん・中曽根さん・朝日新聞社となっています。これらは近年ずっと続いており、いろいろと配慮していただいています。この信頼関係をくずさないよう部員一同がんばっていききたいと思います。

競技会関係

競技会の主管は、主務が中心となって仕事をしています。しかし、去年の例を見ると到底一人では出来ないで、効率的に副務や他の部員に仕事を割り振っていきませんが、手違いのないよう全体のことをしっかりと把握しミスのないようにしていきたい。

《馬匹より》

谷地 織

現在の馬の頭数は12頭です。肢や腰に心配のある馬がかなりいますが、運動管理を含めてできる限り日頃からのケアで、馬体を維持していく方向でいます。各馬についている者だけでなく部員全員が部の馬たちの馬体の状態を知って馬体維持・ケガや病気の予防に努めていくことが必要です。

馬たちの生活環境を見直してみたところ、それには馬房を含め厩舎内外や部の環境を清潔に保つことから始めなければいけないと思いました。そして、馬を、乗られている時間以外いかに過ごしやすくしてやれるか、です。放牧地であるパドックが、雨降る度にドロドロとぬかってしまうのを常々なんとかしたいと思い続けていたところ、この度、長岡さんの御好意により厩舎裏のパドックの改装を行うことになりました。表土をとり去り火山灰を入れ、なるべく多くの馬を長時間放牧できるようにパドックをつくりなおす予定です。

ほんとうならば、一日中集団で放牧しておけばいいのですが、馬たちに順列ができるまで多少のケガは避けられないので、多くの試合に出場していく関係上、集団放牧はなかなか難しいのが現状です。今シーズンが終り冬鉄に変わる前に試みてみようとも考えています。

馬の管理はすべて日頃の小さなことの積み重ねによると思います。ささいなことを怠らず、皆で部の馬たちを快適に過ごさせてやり、試合につなげていきたいと思っています。獣医学部卒の野中兄にはお忙しいところいつもお世話になっています。これからもよろしくおねがいします。

部報を読まれたOBの方々へ

集団放牧について、以前のクラブでの様子をお知らせ下されば幸いです。

《会計より》

西村 雅夫

現在の馬術部の会計には、OBの滞納金が約100万円存在します。昨年度の会計報告を見ても分かるように、現在の馬術部の会計は単年度では赤字であり、収入の大半は部員のアルバイトに頼っている状態です。また今年度は馬運車のオーバーホールをした事もあり、切羽詰まっていなくても、部の会計は苦しい状況である事に変わりありませんOBの方々も現役当時を思い返せば現状も理解できる事と思います。是非すぐにも滞納金を支払うよう宜しくお願いします。

会計報告 平成5年1月～12月

収入

		計
部 費		344,000
ア ル バ イ ト	朝日新聞社	719,200
	モモセ	369,000
	JRA開催	2,405,000
	JRA乗馬厩	341,100
	N H P	530,080
	そ の 他	653,300
企画・競技会		880,496
補 助		1,834,030
そ の 他		1,319,152
合 計		9,395,357

支出

		計
飼 料		1,144,741
装 蹄		1,651,800
薬 品		375,395
作 業		324,178
馬 具		561,829
電 話		260,016
輸 送		1,043,384
車 輜		684,639
登 録		393,500
事 務		176,287
そ の 他		2,909,634
合 計		9,524,406

会計 西村雅夫

平成5年度 行事報告

❁ 4 月

- 3～4日 七帝戦
- 14～18日 馬術講習会

🏠 5 月

- 3、4日 第21回半澤記念馬術大会
(於 北大)
- 12～16、17～21日 新歓合宿
- 15日 寮歌祭♪藻～岩のみどりい～♪
- 22、23日 馬場馬術大会 (於 NHP)
- 30日 三大戦 (於 帯畜大)
- 31日 新歓コンパ

🏠 6 月

- 3～6日 教養祭
- 12、13日 第28回北海道自馬馬術大会
(於 浦河)

🏠 7 月

- 2～4日 全日本学生馬術選手権大会
(於 馬事公苑)
- 17、18日 北海道地区馬術大会 (於 NHP)
- 22日 お返しコンパ

🏠 8 月

- 5～9日 第29回北日本学生馬術大会
(於 帯畜大)
- 11～17日 日高合宿
- 20～22日 北海道地区体育大会
- 25日 NHPカップ
- 27～29日 ヤマハノーザンホースショー

🏠 9 月

- 4、5日 北海道障害馬術選手権大会 (於 NHP)
- 東日本馬術大会

🏠 10 月

- 11日 山下杯
- 24日 OB戦

🏠 11 月

- 6、7日 F.M.C
- 13～14日 全日本学生馬術大会
- 28日 九大戦

🏠 12 月

- 19日 忘年会
- 26～30日 冬合宿

🏠 1 月

- 2日 初乗り
- 3～7日 冬合宿

🏠 2 月

🏠 3 月

- 11日 追いコン

戦績報告

◆対東北大学定期戦（於東北大 3月28日）

出場選手 大原 河合 米家 杉野 溝井

優勝：北海道大学 準優勝：東北大学

最優秀選手 溝井

◆国立七大学定期戦（於京都大 4月3日～4日）

出場選手 荒瀬（4） 八木（4） 松原（3）

1位：名古屋大学 2位：東京大学 3位：京都大学 5位：北海道大学

◆第21回半沢杯記念馬術大会（於北大 5月4日）

〈複合馬術競技〉

1位	加藤	ブラックランバー	酪農学園大学
2位	大村	騾 狼	酪農学園大学
3位	八木	北 銀	北大（4）
5位	岡部	北 玲	北大（4）
8位	松原	明日 檜	北大（3）
11位	荒瀬	グレンエトワール	北大（4）
14位	深部	北 駿	北大（3）

〈馬場馬術競技第三課目（第1班）〉

				得点率
1位	岡崎	キョウワノーザン	J R A 札幌競馬場	54.92%
2位	高橋	アドニス	モモセ R.F.	52.31%
3位	開発	オスカー	フロンテア R.C.	51.59%
9位	鶴見	北 瑛	北大（2）	44.20%
10位	岡部	北 玲	北大（4）	43.47%
15位	松原	明日 檜	北大（3）	36.88%
16位	黒崎	北 瑛	北大（3）	36.81%
17位	米家	北 瑛	北大（2）	33.11%

《馬場馬術競技第三課目（第2班）》

1位	田 伏	ウインリバー	モ モ セ R. F.	49.49%
2位	谷 口	シルビア	フロンテア R. C.	49.13%
3位	大 村	騾 王	酪農学園大学	46.66%
6位	八 木	北 遥	北大(4)	45.53%
15位	鎬 木	北 遥	北大(2)	36.52%
17位	深 部	北 駿	北大(3)	34.05%
	船 越	北 遥	北大(4)	失権

JUMP OFF

《中障害飛越競技》

中障害飛越競技)					減点	TIME	減点	TIME
1位	松田	騾鷹	酪農大	0	54"1	0	28"5	
2位	斉藤	チャレンジャーNo1	オーフル	0	62"6	0	29"1	
3位	松原	明日檜	北大(3)	0	66"5	0	30"8	
6位	横幕	ファストバロン	北大OB	0	63"8	0	33"6	
12位	八木	北銀	北大(4)	-8	57"5			
15位	岡部	北玲	北大(4)	-10	83"2			
	深部	北駿	北大(3)	失権				

《小障害飛越競技》

			減点	TIME
1位	岡 崎	センジュウヒカリ	J R A	0 45"8
2位	佐々木	モデルミラー	フロンテア R. C.	-4 44"0
	谷 地	パシオン・M	北大(2)	-1 48"6
	三 浦	ファスト バロン	北大(4)	-6.5 58"3
	八 木	パシオン・M	北大(4)	-11.5 54"1

《新人新馬障害飛越競技》

			減点	TIME
1位	萩 中	ドラゴンビュー	オーフル	0 44"9
2位	谷 口	クレオ パトラ	フロンテア R. C.	0 43"5
3位	石 川	ウェルノン	オーフル	0 43"3
	八 木	北 遥	北大(4)	失権
	鎬 木	北 遥	北大(2)	失権
	船 越	北 遥	北大(4)	失権

◆北日本学生馬術選手権大会（於帯広畜産大学 5月9日）

（学生の部） 北大選手 八木（4） 佐土谷（4） 黒崎（3）

1位 大 村 酪農学園大

2位 幌 村 酪農学園大

3位 八 木 北 大

7位 佐土谷 北 大

（女子の部） 北大選手 岡部（4） 三浦（4） 倉本（4）

1位 庄 子 東 北 大

2位 河 名 帯広畜産大

3位 岡 部 北 大

◆四大学定期戦（於 帯広畜産大）

使用馬匹 柏霞 柏楽 勝皇

北大選手 鎗木 鶴見 谷地

戦績 1位 酪農大 2位 帯広畜産大 3位 北大

◆第7回北海道馬場馬術大会（於ノーザンホースパーク 5月22～23日）

〈第二課目 成年〉 得点率

1位 鈴 木 メイキッスジョー オーフル 52.5%

2位 谷 口 シ ル ビ ア ン フロンテアR.C. 47.7%

星 野 ク レ オ パ ト ラ フロンテアR.C. 47.7%

岡 部 北 玲 北大(4) 39.5%

溝 井 グレンエトワール 北大(2) 39.5%

保 坂 北 瑛 北大(2) 35.0%

杉 野 北 銀 北大(2) 34.9%

大 原 北 駿 北大(2) 失権

《第三課目 成年A》					得点率
1位	星 野	オ ス カ ー	フロンテアR.C.		60.6%
2位	小 野	カツトップイエロー	メインフィールド		57.5%
3位	村 上	ミス・ジェニファー	札幌乗馬倶楽部		57.4%
9位	深 部	北	駿	北大(3)	54.1%
16位	荒 瀬	グレンエトワール		北大(4)	48.7%
18位	三 浦	北	遥	北大(4)	48.1%
19位	西 村	北	銀	北大(3)	47.7%
22位	黒 崎	北	瑛	北大(3)	47.0%

◆第28回北海道自馬馬術大会（於浦河公園 6月12日～13日）

《馬場馬術競技第三課目 成年A》					得点率
1位	開 発	オ ス カ ー	フロンテアR.C.		59.0%
2位	鈴 木	メイキッスジョウ	オーフル		58.1%
3位	増 元	ア ブ サ ン	札幌柏友会		54.3%
8位	深 部	北	駿	北大(3)	50.4%
10位	八 木	北	銀	北大(4)	49.7%
15位	荒 瀬	グレンエトワール		北大(4)	47.8%
22位	船 越	北	遥	北大(4)	39.7%

《馬場馬術競技第三課目 成年B》					得点率
1位	宮 浦	シルバー キング	札幌乗馬倶楽部		56.3%
2位	利根川	エ ル ツ グ ラフ	N. H. P.		55.0%
3位	大 淵	ア ブ サ ン	札幌柏友会		52.9%
10位	黒 崎	北	瑛	北大(3)	50.1%
11位	谷 地	北	瑛	北大(2)	50.0%
13位	河 合	北	遥	北大(2)	47.8%
14位	岡 部	北	玲	北大(4)	47.7%
16位	松 原	明 日	檜	北大(3)	47.2%
19位	竹 田	北	瑛	北大(2)	42.6%

《障害飛越競技 L 級（ノーマル成年）》

荒 瀬 グレンエトワール 北大(4)

《障害飛越競技 L 級（成年 初心者）》

田 中 北 銀 北大(2) 減点 7 TIME 75"3

《障害飛越競技 L 級（成年）》

深 部 北 駿 北大(3) TIME 119"70 open
横 幕 ファスト バロン 北大OB 139"50 open
三 浦 北 皇 子 北大(4) 63"30 open
荒 瀬 グレンエトワール 北大(4) 失権

JUMP OFF

《標準障害飛越競技 M 級 C》

減点 TIME 減点 TIME
1 位 白 井 シ ド ラ 日高K.F. 0 85"7 0 45"6
2 位 白 井 ラ レ イ 日高K.F. 0 80"8 0 46"2
3 位 斉 藤 チャレンジャー-No.1 オールフル 0 83"9 0 52"7
4 位 松 原 明 日 檜 北大(3) 0 78"9 0 58"3
16 位 八 木 北 銀 北大(4) 15 89"0
20 位 岡 部 北 玲 北大(4) 18.25 95"7
深 部 北 駿 北大(3) 失権
横 幕 ファスト バロン 北大OB 失権
三 浦 北 皇 子 北大(4) 失権

《スピードアンドハンディネス競技 C》

TIME
1 位 大 村 騾 狼 酪農大 65"50
2 位 松 原 明 日 檜 北大(3) 74"80
3 位 白 井 ラ レ イ 日高K.F. 77"50
10 位 深 部 北 駿 北大(3) 87"90
18 位 八 木 北 銀 北大(4) 96"60
24 位 岡 部 北 玲 北大(4) 109"10
三 浦 北 皇 子 北大(4) 失権

◆全日本学生馬術選手権大会（於馬事公苑 7月2日～4日）

出場選手 八木（4）

◆第18回北海道地区馬術大会（於ノーザンホースパーク 7月17日～18日）

《馬場馬術競技第三課目 成年A》 得点率

1位	宮 浦	シルバー キング	旭川R.C.	57.0%
2位	佐 藤	チャンプ	彗星 親駿	51.1%
3位	河 名	レーシングマック	帯 畜 大	50.7%
10位	岡 部	北 玲	北大(4)	47.5%
11位	船 越	北 遥	北大(4)	47.0%
14位	黒 崎	北 瑛	北大(3)	45.3%
15位	荒 瀬	グレンエトワール	北大(4)	45.0%

《馬場馬術競技第三課目 成年B》 得点率

1位	開 発	オ ス カ ー	フロンティアR.C.	57.2%
2位	原	アンナ クイーン	十勝柏友会	53.6%
3位	高 橋	ア ド ニ ス	モモセR.F.	52.3%
8位	八 木	北 銀	北大(4)	49.1%
10位	深 部	北 駿	北大(3)	48.3%
12位	米 家	北 遥	北大(2)	47.5%
14位	森 沢	北 瑛	北大(2)	40.0%

JUMP OFF

《内国産障害飛越競技M級C》

減点 TIME 減点 TIME

1位	吉 田	シベリアンテイスト	N. H. P.	0	89"51	0	46"15
2位	梶 原	ア ブ サ ン	十勝 樹駿	0	83"39	0	46"72
3位	村 上	ミスジェニフアー	札幌R.F.	0	80"47	0	46"81
9位	松 原	明 日 檜	北大(3)	0	89"28	-4	61"28
10位	岡 部	北 玲	北大(4)	0	82"78	-27	79"89
28位	八 木	北 銀	北大(4)	-11.25	102"6		
	三 浦	北 皇 子	北大(4)	失権			
	深 部	北 駿	北大(3)	失権			

JUMP OFF

《障害飛越競技L級(成年)》

減点 TIME 減点 TIME

1位	村 上	マ ド ン ナ	北星R.C.	0	65"34	0	25"85
2位	久保田	アンナ クイーン	十 穂 樹 絵	0	62"85	0	28"95
3位	天 羽	ア カ デ ミー	日高K.F.	0	81"88	0	29"68
	横 幕	ファスト バロン	北大OB		失権		
	荒 瀬	グレンエトワール	北大(4)		失権		
	岡 部	ファスト バロン	北大(4)		失権		
	鎗 木	北 銀	北大(2)		失権		
	谷 地	パ シ オ ン ・ M	北大(2)		失権		
	鶴 見	北 駿	北大(2)		失権		

《内国産スピードアンドハンディネス競技C》

TIME

1位	吉 田	フ ェ ニ ッ ク ス	N. H. P.	65"42
2位	吉 田	ダイナアトランダム	N. H. P.	67"73
3位	吉 田	シベリアンテースト	N. H. P.	69"66
7位	松 原	明 日 檜	北大(3)	78"12
	深 部	北 駿	北大(3)	失権
	八 木	北 銀	北大(4)	失権
	岡 部	北 玲	北大(4)	失権
	三 浦	北 皇 子	北大(4)	失権

《内国産(M級C)選手権競技》

減点 TIME

1位	吉 田	ダイナアトランダム	N. H. P.	0	83"96
2位	松 原	明 日 檜	北大(3)	0	88"84
3位	村 上	ミスジェニファー	北星R.C.	-4	77"79

《障害飛越競技L級スピードアンドハンディネス(成年)》

TIME

1位	村 上	マ ド ン ナ	北星R.C.	58"41
2位	久保田	アンナ クイーン	十 穂 樹 絵	63"82
3位	村 上	ア リ ス	北星R.C.	66"36
	荒 瀬	グレンエトワール	北大(4)	失権
	谷 地	パ シ オ ン ・ M	北大(2)	失権

◆北日本学生馬術大会（於帯広畜産大学 8月5日～9日）
 ◇二回走行

			一走目	二走目	合計
1位	大村（酪農）	騾狼	0	0	0
2位	平松（畜大）	柏雲	0	-4	-4
3位	松原（北大）	明日檜	-4	0	-4
	八木（北大）	北銀	-19、75	3反E	
	岡部（北大）	北玲	3反E	3反E	
	岡部（北大）	北皇子	3反E	3反E	
	深部（北大）	北駿	3反E	3反E	

◇総合			調教	耐久	余力	合計
1位	大村（酪農）	騾狼	-128%	-2	0	-130%
2位	道谷（酪農）	騾天鳳	-136	-11%	-5	-152%
3位	平松（畜大）	柏雲	-145%	-2%	-5	-153%
11位	岡部（北大）	北玲	-155%	-65%	-15	-235%
17位	八木（北大）	北銀	-157%	-203%	-5	-366%
	深部（北大）	北駿	-155	3反E	3反E	
	荒瀬（北大）	グレンエトワール	-167%	3反E	棄権	

◇学生賞典馬場馬術競技			得点	(%)
1位	大村（酪農）	騾優	583、5	(51、2)
2位	飯村（弘前）	K1ロツ	579	(50、8)
3位	林（東北）	サンルイエール	554	(48、6)
8位	黒崎（北大）	北瑛	473、5	(41、5)

◆第40回北海道体育大会（於ノーザンホースパーク 8月20日～22日）

《総合馬術競技》					総減点
1位	川久保	アブサン	十勝 榎谷		-119.33
2位	原	アンナ クイーン	十勝 榎谷		-165.33
3位	幌村	騷 泰斗	酪農大		-180.07
	深部	北 駿	北大(3)		失権

《馬場馬術競技第三課目(成年)》					得点率
1位	増本	アブサン	十勝 榎谷		52.8%
2位	開発	オスカー	フロンティアR.C.		52.7%
3位	百瀬	ロンドン ボーイ	モモセR.F.		52.2%
10位	船越	北 遥	北大(4)		47.6%
16位	鶴見	北 遥	北大(2)		45.3%

◆第7回北海道障害馬術選手権大会（於ノーザンホースパーク 9月4日～5日）

《一般L級障害飛越競技（標準）》				減点	TIME
1位	早田	オレンジカウティー	早田牧場	0	48"89
2位	風間	ラストチャンス	早田牧場	0	52"16
3位	星野	ヒカリ ライデン	フロンティアR.C.	0	53"54
12位	松原	明日 檜	北大(3)	-3	
19位	横幕	ファスト バロン	北大OB	-4	

《一般L級障害飛越競技（スピードアンドハンディネス）》				TIME
1位	中川	クラブス	日高K.F.	58"70
2位	輪島	モチョボス	N. H. P.	62"35
3位	風間	ラストチャンス	早田牧場	68"52
10位	深部	北 駿	北大(3)	82"87
11位	横幕	北 駿	北大OB	88"05
13位	横幕	ファスト バロン	北大OB	101"44
14位	松原	グレンエトワール	北大(3)	103"34

◆第29回東日本馬術大会

《標準内国産障害飛越選手権競技》

松原 明日檜

北大(3) 失権

◆第15回山下杯河田杯記念馬術大会(於 酪農学園大学 10月11日)

《ジムカーナ競技》

TIME

1位	中田	グレンエトワール	北大(1)	47"68
2位	田中	騾 鈴	酪農大	51"21
3位	永田	騾 鈴	酪農大	51"53
4位	中村	北 駿	北大(1)	55"51
5位	宮坂	明日檜	北大(1)	61"90
7位	高岡	グレンエトワール	北大(1)	66"93

JUMP OFF

《新人新馬障害飛越競技》

減点 TIME 減点 TIME

1位	四宮	カミノヒカル	酪農大	0	79"16	0	27"90
2位	松原	北 遥	北大(3)	0	91"52	0	33"36
3位	坂上	騾 楓	酪農大	0	90"01	0	33"82
4位	黒崎	北 遥	北大(3)	0	84"7	-3	37"49
6位	谷地	ファスト バロン	北大(2)	-1.25	104"81		
8位	西村	ハギノレジェンド	北大(3)	-11	131"28		

JUMP OFF

《L級障害飛越競技》

減点 TIME 減点 TIME

1位	河本	騾 狼	酪農大	0	83"43	0	29"53
2位	鶴見	北 玲	北大(2)	0	88"47	-11	51"91
3位	松原	グレンエトワール	北大(3)	0	82"80	-21	49"55
6位	米家	北 玲	北大(2)	-4.5	105"75		
8位	深部	北 駿	北大(3)	-10.5	105"67		
9位	鐔木	北 皇子	北大(2)	-11.75	111"13		
	溝井	グレンエトワール	北大(2)	失権			

JUMP OFF

《M級C障害飛越競技(河田杯)》

減点 TIME 減点 TIME

1位	道谷	騾	天鳳	酪農大	0	84"69	0	30"05
2位	加藤	ブラックランバー		酪農大	0	86"45	0	31"97
3位	松田	騾	鷹	酪農大	0	77"74	0	34"60
6位	松原	明日	檜	北大(3)	-3	100"57		
	横幕	ファスト	バロン	北大OB				失権

◆OB戦(於北大馬場 10月24日)

《L級障害飛越競技》

減点 TIME

1位	米家	北	駿	2年	0	39"9
2位	鏑木	北	玲	2年	0	41"0
3位	鶴見	北	皇子	2年	0	43"6
4位	玉沢	北	玲	OB	0	49"6
5位	谷地	ファスト	バロン	2年	0	54"7
6位	井上	北	駿	OB	-4	42"3
7位	野中	グレンエトワール		OB	-4	46"1
8位	根井	ファスト	バロン	OB	-4	49"3
9位	溝井	グレンエトワール		2年	-7	59"7

《ジムカーナ競技》

TIME

1位	根井	北	瑛	OB	43"3
2位	横山	北	遥	OB	48"7
3位	野中	グレンエトワール		OB	53"8
4位	河合	北	遥	2年	55"6
5位	笠原	北	瑛	1年	56"5
6位	福岡	北	玲	OB	58"1
	沼田	北	駿	1年	58"1
8位	西浦	北	瑛	1年	61"0
9位	丸山	北	瑛	1年	61"5
10位	村田	グレンエトワール		1年	62"9
11位	林田	北	玲	1年	64"2
12位	玉沢	北	駿	OB	79"0

◆全日本学生馬術大会（於馬事公苑 11月10日～14日）

《第43回全日本学生賞典障害飛越競技（二回走行）》

				一走目	二走目	JUMP OFF	
				減点	減点	減点	TIME
1位	萩原	フェザーフレーム	法政	0	0	-4	38"27
2位	上村	セントイーグル	同志社	0	0	-4	40"03
3位	大村	騾	狼酪農大	0	-8		
5位	松原	明日檜	北大(3)	-4	-4		
(団体成績)				1位 明治	2位 日大	3位 慶応大	

《第36回全日本学生賞典総合馬術競技（3DAY-EVENT）》

				調教	耐久	余力	総計
1位	松元	明月	明治大	-114%	0	-0.5	-114%
2位	佐伯	明撞	明治大	-126%	0	0	-126%
3位	佐々木	ロジカルソング	日大	-119%	-2.4	-5	-127%
(団体成績)				1位 明治	2位 日大	3位 専修大	

《第36回全日本学生賞典馬場馬術競技》 合計得点

1位	荒川	桜	銀日大	1737
2位	北原	明	菱明治大	1711
3位	鈴木	桜	薫日大	1658.5

◆国立九大学定期戦（於群馬大学 11月28日）

出場選手 大原（2） 河合（2）

戦績
 1位 新潟大
 2位 筑波大
 3位 東京大
 6位 北大

北水馬術部活動報告

主将 佐土谷 昌良

平成四年十月より一年間再び東山乗馬クラブのお世話になり、活動してきました北水馬術部を残念ながら部員数皆無の為、休部せざるをえなくなりました。北水馬術部のために努力なされてきたOB諸氏には、なんとお詫び申し上げたらいいいのかわかりません。上本兄が再建されて以来、北水馬術部は常に部員数不足に悩まされてきました。一時は部員数が5人という大変恵まれた時代もありましたが、現在は僕の後輩が四年間分ばっかり抜けているというさみしい状況にあります。

〔函館に来る後輩達へ〕

確かに本学と比べると恵まれた環境にあるとは言えません。しかし、北水馬術部には北水独自の活動の仕方があると思うのです。

札幌から函館へ移行してきた当初はすごいギャップを感じると思う。そこで本学とまったく同質のものを目指し、本学のやり方を真似しようとする、いろいろな壁にぶつかって悩み、もがき苦しみ結局何をすればいいのわからなくなってしまうと思う。実際僕もいろいろと悩んだ。でも、もう一度考え直して欲しい。ここは函館です。学校に厩舎があって自分達の馬がいて自分達で運営しているのであれば別です。北水馬術部の活動は、どうしてもどこかのお世話になってしまいます。そのお世話になっているという気持ちを忘れないで下さい。そうすれば、お世話になっているところと、いつまでもいい関係が結べると思う。（これは何も媚び諂えといっているのではない。）すると、今まで不可能だと思っていたことも可能になるかもしれない。そして、北水独自の色をどんどん出して下さい。それが、ただ馬に乗って楽しいというものでもいいと思う。また、試合を目指して頑張ってもいいと思う。函館は札幌と違うんだから。

自分がなぜ馬術部に入部したのかをもう一度思い出して、既成のものにとらわれず、柔軟に考えて自分達の新しい馬術部を作っていって下さい。なんかよくわからん活動報告になったけど、がんばってください。

最後になりましたが、東山乗馬クラブの菊地先生、岸本先生には当馬術部活動中は何かと御指導、御鞭撻賜り厚くお礼申し上げます。

また、OB諸兄氏の方々、八木以下現役の方々、他大学の皆さんにはいろいろ御心配、御迷惑をかけ、本当に申し訳ありませんでした。

今後、活動再開の折にはよろしく願い申し上げます。

北銀号



騙 サラ 鹿毛
昭和55年4月28日生
上川郡新得町産
父 ヤマブキオー
母 ソーゴータカラ
競走名 トカチヤマブキオー
愛称 ギン

北銀号調教報告

八木 聡

北銀号にはもう一年続けて乗せてもらうことになりました。昨年中の障害での失権も、8月の下旬に行われたシーズン最後の障害選手権大会で、やっと、これはいけるぞ、という形で終わらせることができました。馬場に関しては、1年間乗せてもらったおかげで安定した騎座を得ることができ、また北銀号が扶助に従順なおかげで、騎手が扶助に対して適切な感覚を身に付けることができました。

今思えばここで今年1年どのように乗っていくのかという方針を立てるべきだったのですが、1年間乗ったという感覚的な自分の考えで、計画性のない調教をやってしまったように思います。そこで、調教報告としては戦績・内容ともにあまりに意味を持たないので、今年1年北銀号がどのような経過をたどったのか書こうと思います。

5月の半澤杯では複合と中障害に出場しました。複合では、七帝戦での騎手の自信が通じたのか三位に入賞することができ、今年のシーズンはいけるぞという幸先の良いスタートでした。中障害では騎手が気合いを入れ過ぎてペースが速すぎ、一落で入賞することはできませんでした。

6月浦河で行われた自馬大では、3課目とM級に出場しました。3課目では目標の50%に達することができましたが、それ以上を目指すために鎌田さんに北銀を見ていただき、「肩内をしっかりとやれ」と言われました。また障害では2回出場して、合わせて9落下と良くなく、その時係員をしていただいた高野さんに「コンビネーションをしっかりとやれ」と言われました。しかし今思うと、騎手のせいで拳と随伴が悪かったように思います。

北銀の調子もようやく上がりかけた6月の中旬でしたが、畜大でのスティーブルの馴致から帰っ

てきてからおかしくなってきました。7月に入ってから北銀が跛行をはじめ、だましだましやっていた。今思えば完全に休ませるべきだったのでしょう。

8月、北日を向かえることになりました。馬体がボロボロだったのになぜか自分は出場していました。北銀は二回走行の一走目でゴールを切ってくれました。10番で2回反抗されました。3回目の飛越で初めて、馬を待つ、バランスバックを考えるなど、いろんなことが分かったような気がしました。それから先は、もう馬の肢が上がっていませんでした。二走目で失権、総合の時は、もう馬体は最悪でした。

北銀号へ

二年間本当にありがとうございました。

後輩の皆さんへ

北銀号は本当に素晴らしい馬です。大事にかわいがって下さい。

太田装蹄所

☎782-6084

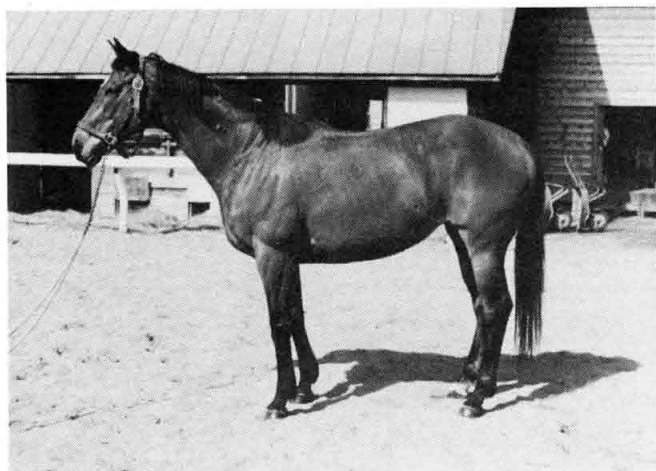
札幌市東区伏古10条1丁目15番5号

やまわショッピングセンター

今 鷺 田 商 店

美園3の4 ☎821-6248

北玲号



牝 サラ 鹿毛
 昭和56年4月8日生
 幌泉郡えりも町産
 父 ノーザンアンサー
 母 クレメンタイン
 競走名 クイーンクレメン
 愛称 おぢょ

北玲号調教報告

岡部 靖子

競技成績

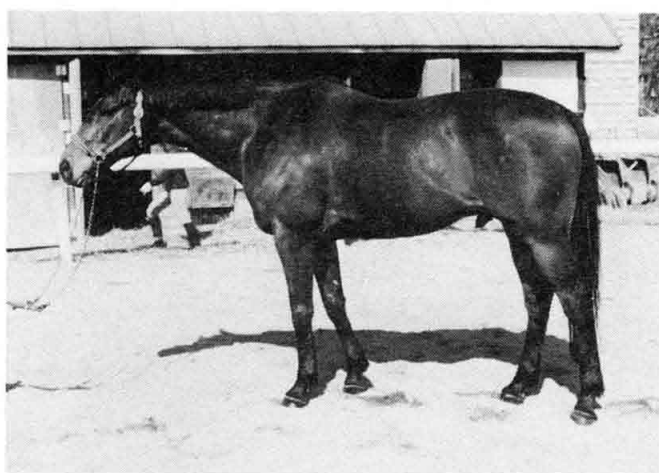
H4. 8. 29, 30	障害選手権	(M級C)	7位	-15.75
		(S & H)	失権	
10. 10, 11	ノーザンカップ	(M級C)	失権	
10. 18	山下杯	(L級)	3位	0/0(J.0)
H5. 5. 4	半澤杯	(複合)	5位	
		(三課目)	10位	
		(M級)	15位	-10
5. 22, 23	馬場馬術大会	(二課目)		39.5%
6. 12, 13	自馬馬術大会	(三課目)	14位	47.7%
		(M級C)	20位	-18.25
		(S & H)	24位	109"10
7. 17, 18	地区大会	(三課目)	10位	47.5%
		(M級C)	10位	0/-27(J.0)
		(S & H)	失権	
8. 5~9	北日本	(障害二回走行)	失権	
		(総合)	11位	-155%, -65%, -15

北日学から帰ってきて、シーズン中は全く故障がなかったのに、北日学の疲れがいつ頃にでたかの様に跛行を始めた。全日前に休むのにちょうどいいと思って休ませていたら、私の方が突然入院することになってしまった。そして、そんな中途半端な形で終わってしまったためとても調教報告など書ける立場ではないのだが、私がこの一年常に頭に置いてやってきたことを並べて、それに替えさせていただこうと思う。

私がとにかくずっと考えてきたことは、「対処の速さ」という一言に尽きる。これは何にでも当てはまると思う。考えてみれば、基本的すぎて当たり前すぎる事なのだが、「いかに馬の動きを敏感にとらえ、またそれに対して敏感に反応するか」ということである。例えば、輪乗りの中で運動しているとすると、その時自分が走らせようとしている輪乗りの輪線から一步でもはずれたら、その時にすぐ脚と拳とバランスで対処。もっと厳密に言えば、はずれたらでなく、はずれそうな一步を踏み出しそうになったら、対処である。50cmより10cm、10cmより1cmである。1cmだってイケナイものはイケナイということをすぐに伝えなくてはいけない。10歩も20歩もはずれてしまってからビシビシ叩いて怒ってみても遅すぎるのである。このことはペースについても言える。自分が出そうと思っているペースより少しでも遅くなったり速くなったりしたら、すぐ対処。0.001秒で対処しなければならぬ。だいたいってから気付いたって遅いのだ。もっと他のことについても同じで、馬がちょっとでも集中力を失う瞬間、さぼろうとする瞬間、頭を上げようとする瞬間、躊躇する瞬間・・・・とにかく瞬間、瞬間の対処である。その瞬間をとらえるためには上にいる人間が感性を磨き、本当にちょっとした動きやバランスの移動を敏感にとらえて、すばやい対処に結び付けることであると思う。これを毎日繰り返していけば馬の方だってはっきりと理解できるはずだし、人にとってもこんなに楽なことはないはずだ。状態がだいぶ悪くなってから気付いて、これはいけないと思ってグイグイ引っ張って戻そうと思っても、これは馬にとっても人にとっても体力的・精神的に辛いのは自明であろう。そうやって馬と人との敏感な関係を作っていくべきだ。このことは私がずっと実行してきたことであり、そしてまた、繊細な性格の北玲にとっては一番有効な方法であると思う。

北玲はもう決して若いとは言えない歳になってしまったが、まだまだ北大を背負って立つ馬である。私自身昨シーズンの失敗を十分反省して、今シーズンは人馬共に自信をつけてきたつもりである。課題であった馬場運動やコンビネーションの飛越も克服してきた。数え切れないほどたくさんのOBそして審査員の方々に、厳しいご助言、励ましをいただいた。全日学への出場を私個人の事情で不意にしてしまったことは、それらの人々に対してまた現役部員に対して、そして北玲に対して申し訳ない気持ちで一杯です。

北駿号



騙 ア・ア 鹿毛
昭和58年4月3日生
三石郡三石町産
父 トップホース
母 プルコワヒメ
競走名 チャフルガイ
愛称 チャフル

北駿号調教報告

深部 ちさ

3月9日からチャフルに騎乗した。馬に能力があることは分かっていたので、まず自分の技術を向上させなければならないと考え、また、シーズンまで少ししかないということもあったので、障害練習はコンビネーションとダブルやトリプルなどの実践的なものを同じ位の比率でやった。低いものしか飛ばなかった事もあり、止まることはなかった。しかし、回転と障害前の失速に対処できず、馬なりの飛越をしてしまっていた。実際の競技会では失速したときに押し切れず、拒止されることが続いた。また、アプローチの悪さや騎手の力みも拒止の原因になった。障害をやらない日は最後に3課目や調教審査の経路を回った。

半澤杯、自馬大とM級Cに出場し、騎手の未熟さから失権していたが、自馬大の失権は最後のトリプルだったスピハンでは1落でゴールを切ったので、騎手がアプローチやリカバリーをしっかりできるようになれば成績につながるだろうと安易にも考えていた。

明らかにおかしいと感じたのは、公認の経路回りにN、H、Pに行ったときだった。あまり反応がよくないと思いつつも経路走行を行ったところ、真ん中あたりで拒止しそれから最初に飛んだ低いものすら飛ばなくなってしまった。その日はそれで切り上げ、以前にもこういう事があったが次の日には飛んだということを聞いたので、北大の馬場でもう一度経路回りをしたところ、満点ではなかったがゴールを切った。公認の当日は、準備馬場では良い感じで飛んでいたにもかかわらず、本馬場で障害に向かったときに馬が硬直してしまったのである。準備馬場では止まりも逃げもしなかったものが、どうしてそんなことになったのか私にはよく解らず、いろいろな人に相談し、頼んで見てもらったり乗ってもらったりした。その時注意を受けたことは、馬なりの運動をしてはいけ

ないということだった。ペースはあくまでも自分でつくってそれを維持し、常に馬を騎手に集中させておかなくてはならない。チャフルは、運動のパターンを知っており次の扶助を予測している。その予測どおりの運動ではなく、馬の意表をつくような扶助を出さなくてはならない。馬が考えるスキを与えず、いつも騎手の指示を待っている状態にしなければならない。これらを頭に入れてモモセで二回走行の経路回りを行ったところ、本番より低いコースではあったが1反でかえって来たので、少しは良くなったのかとも思った。馬が、私の障害前での飛べという要求に答えたような気がしたのである。

しかし、北日では結局何もゴールを切ることができなかった。失敗の一番の原因は、騎手が馬が障害を飛越できる状態を解っていなかったことにあると思う。馬が一応課題をこなし、拒止も逃避もしないので、毎日の練習でこれで良いと思っていた状態が、実は中途半端であり、馬を一生懸命にさせ騎手の扶助には絶対に従うと言う事を、納得させることが全くできていなかったのである。私の要求の甘さ、態度の曖昧さ、そして随伴の悪さに始まる技術の未熟さが積み積み重なった結果、馬が不安になり、さぼることを覚えてしまったのだと思う。

年間を通じて、馬体的にはとくに問題はありませんでした。たくさんの方に指導してもらい、乗ってもらい、気に掛けていただいたことには本当に感謝しています。にもかかわらず、この一年をチャフルにとって無駄にしてしまい、部の目標を果たす事に何の貢献もできず申し訳ありませんでした。また、調教報告とはいいいがたい文章しか書けなかったことをお許しください。

医 薬 品 総 合 卸

札幌東支店

札幌市厚別区厚別中央2条2丁目
☎ (011) 892-5421

旭川支店

旭川市永山4条8丁目
☎ (0166) 47-1311

帯広支店

帯広市西9条南11丁目
☎ (0155) 24-5131

日高支店

静内郡静内町末広町3丁目16番
☎ (01464) 2-5220

釧路支店

釧路市白金町17番8号
☎ (0154) 22-8111

伊達支店

伊達市梅本町16番地
☎ (0142) 25-6111

北見支店

北見市北2条東2丁目9番2号
☎ (0157) 23-2161

遠紋支店

紋別市花園町2丁目
☎ (01582) 3-7533

函館支店

函館市末広町18番21号
☎ (0138) 23-1281

名士支店

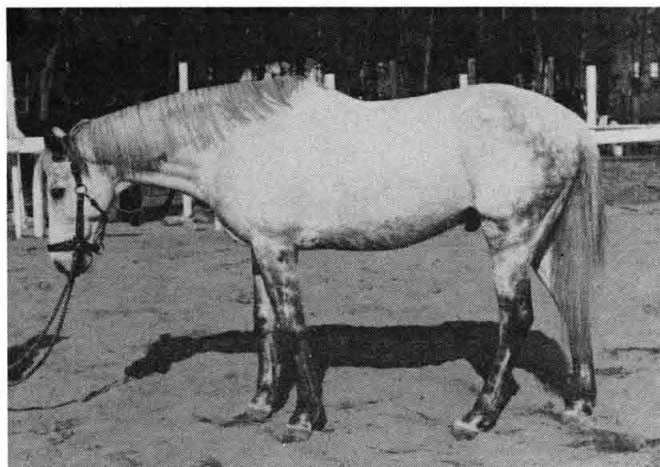
名寄市字大橋58-21
☎ (01654) 3-0233



ホシ伊藤株式会社

本社
札幌市中央区南8条西14丁目
☎ (011) 561-6111

北瑛号



騙 サラ 芦毛
昭和55年4月18日生
湧別郡鶴川町産
父 トレントム
母 ホクエイフブキ
競走名 ニューギャロップ
愛称 ギャロップ

北瑛号騎乗報告

黒崎 雅人

本来ならば調教報告というものは、乗っているその時に感じたことや思ったことを書かなくてはいけないものであるが、北瑛をおりた今この一年間を振り返ると、自分自身があまりにも未熟であり、なおかつ技術的向上心に欠けていたため、乗っていたその時よりも全日学がおわったこの時期の感想を書いたほうが読み手のためになると思い、今の心境を中心に書きたいと思う。

北瑛という馬は、非常に素直で騎手に従順である反面臆病でもあり、障害に対しては相当な恐怖心を抱いているため障害に関しては全くといっていいほど成績を残していない。今の北大の現状を見ると、障害一辺倒で総合のための馬場馬術を少しやる程度であるため、北瑛は、今は実力はないけれども来年のために技術向上を図る人のための練習馬という位置付けの馬です。僕の場合もこの例にもれず、また上級生が少なかったために回ってきたような感じがあった。北瑛の騎乗が決まったときには、全日学の賞典馬場を目指せと言われたが、そんな事はまるで分からずにただ乗っているだけであった。

乗り始めから半澤杯までは、チーフとしては何もやっていなかったと言っても過言ではない。冬の間は毎日乗っている運動管理責任者、それも年間という長期ではなく、その日限り長くてもその週程度の運動しか考えずに、ひたすら旧2課目の練習をしていた。それも新3年目としての練習ではなく、2年目の騎乗の延長として課目をこなすことを練習していた。この期間にもっと技術的向上がはかれれば、後々悲惨な結果を出さずにすんだだろう。本来ならば基礎力をつけなくてはいいけ

なかったが、北日学へは一步も近付けず、また人間が何をすべきか分かっていなかっただけでなく、すべき何かがあるとも気付いていなかった。

初めての試合、半澤杯で下級生に負けたのは、当然の事であった。馬の調子がよければある程度はいけるが悪ければ話にならない、という程度でしかなかった。馬の調子をよく持っていくのがチーフの役目であるが、馬が試合の雰囲気でカリカリしていたのをどうすることもできずに自分の出番が終わり、下級生の一鞍目を終えて馬が試合の雰囲気に慣れた頃に、もう一人の出番になった。続く馬場大会も同様で、あまり変わりばえがしなかった。このときは自分が弱気になっていて3課目を教えられる自信がなく、下級生は2課目に出場させた。結果は、試合の雰囲気に負けて普段の実力さえも出せなかった。

このころ全日本学生馬術選手権に出場が決まった八木さんが、予選で第4課目があるという噂があり、収縮を含めた馬場運動の練習のために北瑛に乗ることになった。このことは自分自身にとって技術的にも精神的にも大きな前進となった。八木さんには教えてもらっただけではなく、佐合さんを積極的に呼んでもらったりいろいろしていただいた。この頃から約一ヵ月の間に、ハミ受け、馬場における馬の姿勢、速さ、そしてその他の事をいろいろと学んだ。

佐合さんに教えていただいたときには主に折り返し手綱を使用した。佐合さんの言葉によれば、北瑛には折り返し手綱で大勒と同じ効果があると言うことだった。今思い返すと、確かに折り返し手綱でも十分高度な運動がこなせるが、大勒の方がハミがきつく、下手な騎手が乗ると拳の堅さのため馬がごねてしまう。しかし、手綱が二本あるという点では両者とも同じであったため、大勒の練習としては大変よかった。

6月は入部以来最高に技術的進歩を遂げたと思う。自馬大ではこの成果が出て、この一年では一番の成績を残した。続く地区大会では大勒を使用して出場したが、慣れていないのと拳の堅さのため思うように馬の調子がよくなり、またひどい結果になった。自馬大の後（北日までは2週間程しかなかった）は、大勒の使い方を徹底的に練習したが、なにぶん時間がなく、迫る北日に焦るばかりであった。この頃一昨年北瑛のチーフであった池田さんが来札されて、練習を見ていただいた。池田さんには、思ったほどひどくなくて安心したが、人間が今のレベルに満足しすぎているからもっと高い要求をしていけ、と言われた。確かにその通りだったが出発の数日前であったため、池田さんの助言を実行する間もなく北日に突入してしまった。

北日では、ハミをできる限り軽く持ち、馬の機嫌を取って経路を回った。この時はたまたま馬の状態が崩れないまま、またフライングチェンジなど不得意としていた課目もうまくこなせ、この一年間で最高の馬場を踏めたと思う。結果は11頭中8位だった。この時の審判の批評は、人は課目に慣れていないし、馬は大勒に慣れていない、だった。全くその通りだった。最後の2ヵ月の実質工事の末かろうじて賞典にたどりついたが、まだまだ競技をするレベルではなかったと思う。

この一年間北瑛に乗っていたため、馬場競技の見方が変わり、また目も肥えてきたと思う。恥ずかしながら3年目になって初めて全日学を見に行っただが、そこで自分の目指していた学生賞典を見て、いろいろと勉強になった。これまでは信じていなかったことではあるが、今の北瑛の調教段階では全日学はもちろん北日学でさえ上位に食い込む事は不可能であることが身にしみて分かっ

た。北瑛は素直な馬であるから、もっと上手な人が乗って調教を進めて賞典馬場を踏めるレベルになれば、北大の学生が乗って学生賞典馬場を狙える可能性は十分にあると思うが、学生段階のレベル、さらにその中でもエース馬に乗れなかった人間が乗って、これ以上馬の調教をあげるのは非常に困難だと思う。北大の現状では、相当良い馬場馬が入らない限り学生賞典馬場とは縁が遠いだろう。

しかし、北瑛が北大にいることは意味がない事ではない。他のどんな馬とも違った事を教えることのできる実力を持った馬である。残された一年は、自分自身は障害だけでなく馬場の技術を磨くことを怠らず、また他の部員にこの事を伝えていかなければと思う。

〔社保・国保・老人医療保険・生活保護指定医〕⁷⁰⁵

庄内義齒専門歯科医院

院長 庄内 貞夫

診療時間 午前9:30～午後5:00迄

水・土曜 午後休診 日・祭日休診

札幌市白石区本通2丁目北8-37

TEL 861-2504

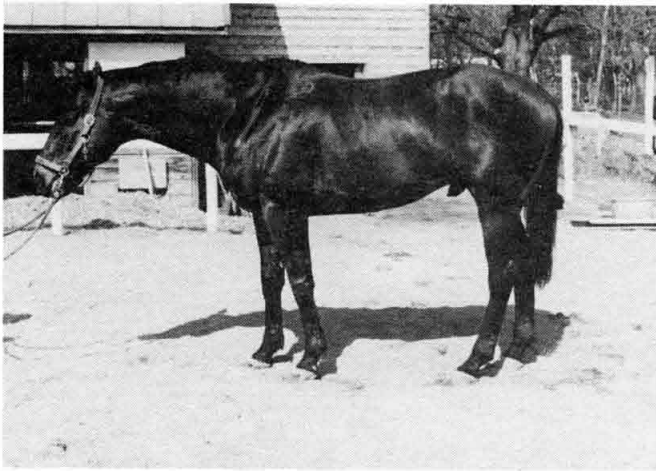
チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市豊平区真栄123番地

TEL 881-0470

グレンエトワール号



牡 サラ 鹿毛
昭和61年3月26日生
静内郡静内町産
父 サクラシンゲキ
母 ホシローズ
競走名 グレンエトワール
愛称 エト

グレンエトワール号調教報告

荒瀬 匡宗

北日学の総合を目指して騎乗した。障害では小障を確実に回れること、馬場ではある程度のハミ受けを保ち課目をこなすことを目標にした。

乗り始めはとても重く、両脚がしびれるほど脚を使ってやっと動かしていた。それではとてもフラットワークなどできる状態ではなかったので、自分の扶助を馬に覚えさせ、基本的な運動を行えるようになるまで同じ事を繰返した。結果的に僕にできたのはここ迄で、この時点での問題点を最後まで改善できずに次の代に引き渡す事になってしまった。以下それらの問題点と僕の試みを書く。

第一に馬の姿勢。常にアゴを突きだし背中を反らして運動するので、ハミを受けず後脚をひきずって歩く。飛越時にも後駆に力がたまらず力強く踏み切れない。これに関してはまず他の人に乗ってもらい、馬のいい動きというのを自分の目で確かめ、それを目標とした。いろいろな補助器具も使ってみたが、その効果を外した後も持続させるのは難しかった。

障害は、飛ぶことに恐怖心を抱いており、向けると必ず減速する。コンビネーションの飛越途中でも減速する。単一障害ではその数歩前で躊躇し逃げようとする。いずれの場合も強く推進すればいけるのだが、もっと根本的なところからの改善を試みた。毎回の障害練習を低いコンビネーションのみとし、きちんと飛んだ時のスピードをおぼえて、常に同じスピードで向かうようにこころがけた。

この騎乗を通しての最大の反省は、次に進むための最低レベルの認識不足である。時間の制約をうけ焦ってしまい、最低必要なことをクリアせずに先に進もうとしていきづまっていた。自分がクラブにいたる時間にこだわらず、もっと長い目で馬の可能性を見極めて計画をたてる必要がある。

以後、後輩たちがこれらの問題点を解決し、さらに調教を進め、いつか馬事公苑で、グレンエトワールが活躍することを期待する。

24:00
☎ 716-2575 **つちの**
食品、酒類、塩、たばこ

コンパ予約受付中
ボリューム満点！
コンパ200人OK！



当店誕生日、御利用の方には
カラー写真・シャンペン・粗
品を差し上げます。

焼鳥 ■ 居酒屋

きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向き
TEL 747-7000
PM5:00~AM1:00



1F 自由人舎時館 N16W 4 ☎726-0158
たまりBAR 2F 時館倶楽部 N16W 4 ☎758-7660



騙 ア・ア 栗毛

昭和52年5月23日生

沙流郡平取町産

父 フロルア

母 ギンチョウ

競走名 フロルアタロウ

愛称 シケレペ、ペ

ペと私

松原 貴史

<3月>

2年目の3月からペにのり始め、3月中は、冬場の人馬転のため左前肢を故障し常歩・速歩を繰り返すだけの毎日であったが、運動不足のためか走りたがり、ゆっくりさせるのに苦労した。自分では、他の馬はどんどん障害練習しているのに、俺はこの程度のことしかできない。すごく不安であったが、この馬は全日学の二走を回ることができる馬だから特に何もする必要はないのだ、と自分に言い聞かせていた。いつもそばにすることでべとの人馬の関係をつくろう、運動ができない分はそこで補おうと考えた。しかし実際には、週2回のレーザー治療そして騎乗後の水冷をしていて、シーズンに間に合うのか不安いっぱいだった。

<ペの特徴>

ペは、普段の手入れで体を非常にかゆがり、30分以上もブラシがけしてもまだペは満足せず、体を寄せてきてもっとやれ、もっとやれとせまってくる。いつも腕がつりそうになっていた。またすごい臆病者で、曳馬では落ち着かずすぐに走り、他の馬が回りからいなくなると突然不安になり、自ら重文から帰ろうとする。またボロは馬房の後ろに必ずして、馬房はいつも清潔である。

<4月>

4月に入り、半澤杯を目指して徐々に運動を上げた。まず30分間馬場らちぞいに放棄手綱で常歩をし、5分間速歩で大きく走らせる。これで馬体をほぐし、その後15分間フラットワークを行った。そして外乗というような感じである。また4月の中旬からは、ようやく障害練習を取り入れた。それは、一つの障害への速歩での飛越をし、それから踏切りをはずし100cmの正オクサーまで行った。普段のフラットワーク以上の前進氣勢があり馬をなかなか制御できず、ペは、行くぞ、

行くぞ、ボカーンという感じで馬にもっていかれていた。障害練習は週2回程度とした。

<半澤杯>

半澤杯の一週間ぐらい前に経路回りを行った。この時は、馬が走ってしまうのはしょうがないから、馬を抑え過ぎずにまっすぐ向ける事と絶対に随伴で邪魔しない事だけを考えて結果、満点であった。結局本番の中障害でも満点でゴールした。しかし馬場馬術では、当日ペが準備馬場でポニーを見て興奮し、暴走してしまい準備運動にならなかった。経路がたどれるかどうか不安になり、実際には抑えながら経路をたどっただけのものになってしまったが、得たものは大きかった。それは、準備運動でしっかり脚を使って運動することが足りなく手綱で抑えるだけのものとなっていたことに気付き、馬をもっと人に意識させて準備運動をするべきであった。

<馬場大会（ノーザン）>

この前の半澤杯での失敗を生かそうと考え、準備運動を強めの脚により推進することを考えた。かえて、ペは自分に注意を向けてくれた。この時は半澤杯の時と逆で、前進氣勢が少し欠けていると評価された。ようやく馬場のリズムというものがあった気がした。

<自馬大会（浦河）>

浦河への出発一週間前に40°の熱を出し、3日間くらい馬休にしてあまり乗ってなく4日前にようやく回復した。場所が浦河であるため輸送に時間がかかり、ペの体調が心配されたが、ペは浦河でも元気いっぱいでした。試合当日下見の時、MCの高さが非常に高く感じ、こんなの跳べるのかという不安でいっぱいであったが、ペはこんなの全然平気と言っているように満点でゴールした。自分にとってすごい自信となった。ペを完全に信頼し、ペが何でも跳ぶことを確信した。また、翌日のS&Hも満点であった。ペが元気に何事もなく、札幌に帰ってきたことがうれしかった。

<公認大会（ノーザン）>

自馬大会の事がかなり自信となり、馬の体調を維持することを一番に考え決して無理に運動量を増やしたりしなかった。試合当日ペは非常に落ち着いていて、逆にいつものペの元気の良さがなかった。自分でも、ペをゆっくり跳ばせようとして馬を抑えすぎ、S&Hは満点であったがMCのJump offで落下をしてしまった。初めての減点であった。続く翌日の選手権でも一反抗し、あまりよいものとは言えなかった。試合で初めて止まってしまったのだ。結局、馬のリズムを考えずにゆっくりしすぎたのだと自分では思った。そして無理に拳で馬を抑えすぎず、馬をもっと自由にさせてやろうと考え、コンタクトを決して強くし過ぎないこととした。

<北日学（畜大）>

エントリーは二回走行のみとした。完走する自信はあったが、自分としては昨年の-12を上回ることを目標とした。障害は昨年より高くはなっていたが、経路とアプローチさえ間違えなければ満点で行けると思っていた。自信はあった。結果は、

一走目：10番の大きなオクサーをフラットに跳び、一落下

二走目：満点

で、3位！権利を取った。夢に見た馬事公苑の舞台に自ら立てるのだ。やった。一つの目標が達成した。人馬共に絶好調！

<東日本（山梨）>

初日の内国産標準では初めて1m30cmの高さを経験。ペは平気でどんどん跳ぶ。自分が、ペ

についていけず、トリプルで一落下する。

二日目はS&H。高さは1m20cmが最高なので、これくらいは全然平気だと思っていた。ペも初日の好調を維持し、またトリプルで一落下する。

前の、初日、二日目の結果で、ペは12位で予選を通過し三日目の選手権に出場できた。高さは初日と同じ1m30cmが最高であり、初日に完走したのだから大丈夫だと自分では思っていた。しかし実際には3反抗で失権した。

原因は、体力的な面もあったかもしれないが、一番にあげられるのは馬を抑え過ぎたからだ。ペを自由に飛ばす事を忘れていた。自分はまだ下手なのに、余計なことをしすぎた。ペの邪魔をしたからだと自分に言い聞かせたが、しばらくショックは消えず、東日本なんか行くんじゃないかと何度も思った。どうしよう、馬に変な癖がついていたら……。しかし今考えると、馬を自由に飛ばすという原点に再び戻ることができたような気がする。

<山下杯(酪農)>

MCにエントリーした。こんなの絶対満点で帰らなければならないくらいのレベルであったが、1反抗した。またまた大ショックだ。でも、経路を回ったことに少しほっとする。後は全日学を待つのみ。やるぜ……！

<全日学(馬事公苑)>

山下杯から全日学までの調整は順調であり、また北大で全日とは関係のない経路を1回、回った。これは高さは1m10cmまでのもので、できは良かった。あとはやるだけだと心に思った。馬事公苑までの輸送も何ごともなく、ペは元気いっぱいでした。前日のフレンドシップは、馬の体力の回復を第一に考え、また、東日本のときの三日目の競技でペが少しばてていたことをも考慮して、出場を辞退した。

～一走目～

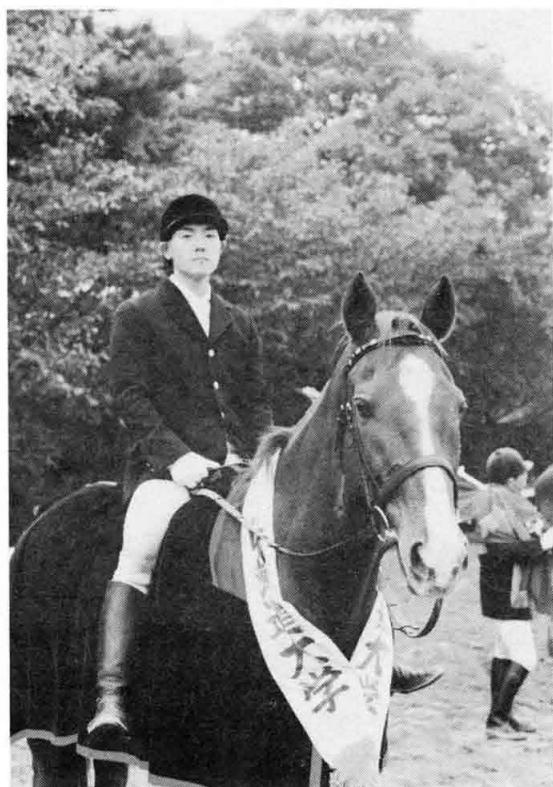
準備馬場では、ペは元気いっぱい抑えるのに苦労した。また、いつものように障害の高さは1m10cmまでとして、リズムを重視しての飛越を行った。さて、出番がきた。いつものように速歩で入場、審判の前で敬礼し、あらかじめ決めたところを回って1番に向かった。ペはすごい気合いがあり、これはいけると思った。真っ直ぐ行けよ、同じリズムで……と自分に言い聞かせた。1番、2番、3番、何の問題もなくペは飛越する。14番の後ろを回って4番、90度左へ曲がって、行き過ぎないようにと内心思いながら少し斜めに5番を飛ぶ。今度は90度右に曲がって6番障害を、ペは踏み切ろうとする。その時ペの脚が少しすべり、後肢がオクサーの間に落ち、落下してしまう。まだ障害はたくさんある、気を取り直そうと思った。同時に7番をきれいに飛ぶことを考える。自分では、ここが一番難しいと以前から考えていた。7番をきれいに飛べば、5歩で8番のAがきれいに飛べるはず。もし7番でつまったら、少し追わなければと考えていた。問題の7番をきれいに飛ぶことができ、8番のA、B、Cのトリプルを難なくペは飛越した。Cを飛んだとき、思わず鞭を落としてしまった。9番は垂直なので、馬を少し抑えてゆっくり垂直障害を飛ぶ。10番は、大きくボリュームのあるオクサーで、9番からはかなり距離もある。脚を使って馬体をおこす。踏み切りがきれいに合った。よし、いけると思った。11番への回転で、またペは脚をすべらすがきれいに飛ぶ。12番のリバプールは幅があるが、ペなら平気だと思い、13番Aを4歩できれいに飛ぶことを考えていたので、少し抑えめでリバプールを飛越、13番のA、Bと完璧にクリ

アーした。最後の14番、また脚を少し強く使って馬に気合いを入れる。ペは反応してくれる。踏み切りが合うことを祈りながら14番に向かい、飛んだ。一落だ。やったぞ、ペ！

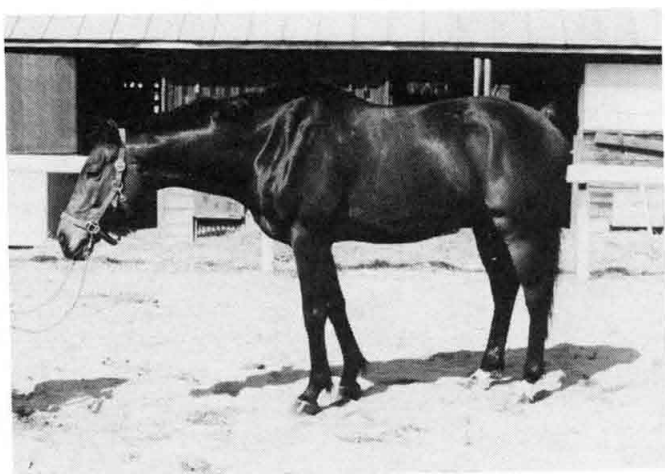
明日もがんばろうぜ。

～二走目～

準備馬場では、昨日と同じくらいペは気合い十分だ。障害も、同様に1m10cmまでしかやらない。さあ、出番だ。少し雨が降ってきた。ペは暑いとばてやすいから、ちょうどいいやと思った。速歩で入場、敬礼、ベルが鳴る。ペは驚く。左駈歩を出すと、ペは前へ前へ行きたがる。あせるなとペにささやく。1番、そして2番と飛ぶ。3番で踏み切りが合わずに、ペは障害を引っ掛けて落下する。4番へ、少しはやくなったがよい。5番を飛び、前日に落とした6番に慎重に向かう。やはり自分が少し堅くなったが、難なく通過した。すごくホッとしたが、7番をきれいに飛ばなければ……。よし、5歩で8番のA、B、Cを飛越した。少しゆっくりにして9番、脚を使って10番の大きなオクサーをも、ペは飛越した。11番を飛び、12番のリバプールをペは大きく飛んでしまった。13番のA、踏み切りが近くなったが、ペはA、Bとうまく脚を抜いてくれた。最後だ。終わった。昨日と同じ一落。よくこんな高い障害を飛ぶな！と感心した。満足な走行であった。来年は絶対団体を組んで、たくさんの馬たちを連れてこよう。みんなで喜びたい。



ファストバロン号



騙 サラ 鹿毛
昭和61年3月8日生
浦河郡浦河町産
父 スイフトスワロー
母 インターブロッサム
競走名 ファストバロン
愛称 バロン

ファストバロン号馬匹紹介

谷地 織

バロンも北大に来て、1994年夏現在で丸4年になります。右前繋のボルトの腫れもひき、万年ビッコですが肢の方は落ち着いてきています。入厩した当時、馬房の中であばれまわっていたというライオンバロンも、今ではウサギの皮をかぶって心身共に成長しています。

平成6年度(次号)の部報には、Y兄の調教報告(H5)を折り込んでバロンの調教報告を書きたいと思います。

市内無料配達致します。

お気軽にお電話下さい。  **はしもとフラワー**

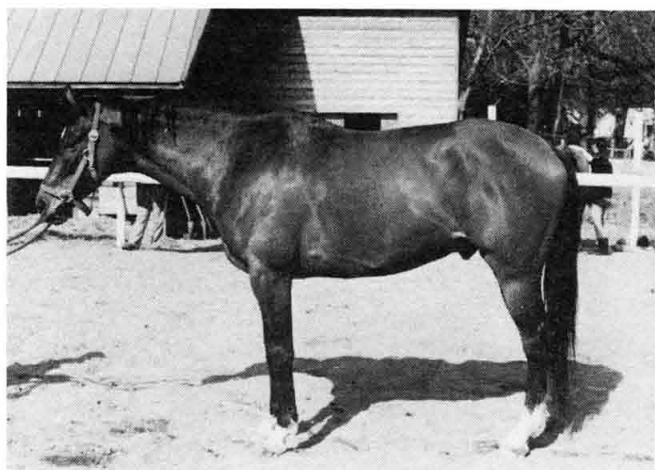
(地方配達も
受け承っております)

橋 本 秀 弥

札幌市北区北21条西5丁目18番52号

TEL 709-7450番
FAX

北 遙 号



セン サラ 鹿毛
昭和62年4月17日生
北海道浦河郡浦河町産
父 ベストブラッド
母 カワチカホ
競走名 ベストエンゼル
愛称 エンゼル

北 遙 号 調 教 報 告

船越実和子

93年1月より8月まで、北遙号チーフとして騎乗した。

90年夏に入厩、前田兄、横山兄の調教を経て、前号の部報で横山兄が記されているとおり、当時の北遙の調教状態から今後の可能性として全日学を目指すのは難しいと判断、OBの方による調教を断念し、代わって徹底的に下級生の練習に使える馬としていくことになった。どのような練習馬として使うかは様々な方法が考えられたが、部の状況が、全日を目指すには各馬のチーフが未熟でまず本人たちの時間を練習時間の多くに割かなくてはならないだろうこと、3年目（当時は2年目）の数が少なく2年目（同1年目）の多くの者には秋から即戦力になってもらわなければならないことなどから、ただひとりをチーフにするのではなくできるだけ多くの2年目に運動管理の方法を感じ考えてもらうことを目的に、技術的には調教者としては程遠い自分が馬の調教状態の維持と馬体管理を主眼に騎乗することになった。

春までは自分が北遙を知るための時間とした。下級生の馬配は一週間ないし二週間程度で交替させた。4月以降は競技会を視野に入れながら約一か月間のタームで2年目をひとりずつ「運動管理責任者」として乗せていった。順に、鎬木弟（半沢杯出場）、河合妹（道馬場馬術大会、道自馬馬術大会出場）、米家妹（道地区馬術大会出場）、鶴見弟（道国体予選大会出場）の4名が実際に運動管理責任者として騎乗した。当初は障害競技に出場していく予定だったが、後述する理由により果たせず、鎬木弟以外は馬場競技のみの出場となった。

以上、概略である。このように北遙に乗っていくにあたっては、数多くの矛盾や問題点を感じた。最大のものは、馬体管理・運動管理と名前は付ければよいが、両方はそもそもひとつで、馬体管理

をせずに運動管理はできないし逆も当然言えることだと思う。なぜなら馬は一個体として生きていて、運動中であろうと、手入れ中であろうと、食べていようが寝てようが、その馬はその馬だからである。その日の彼の心理状態や体の具合を知らないでは運動なんてできないし、どんな運動をしたのだからどんなケアが必要だということも運動内容を知らなくてはできない。しつこく書いて申し訳ないが、自分が一番気を付けようとしたのはその部分だった。「運動管理責任者」である2年目は同時に他の馬のサブチーフだったり馬体管理責任者だったりしたので、もちろん北遙にずっとついていけるわけにはいかない。でもできるかぎり騎乗時間以外にも彼のことを気にしてもらうよう働きかけ、運動前に彼について気付いたことはすべて伝えるようにした。話はずれるが、北遙自身のサブチーフにも同様に、自分が北遙の調教に携わっているのだという気持ちを常に持たせるよう努力した。どんな些細なことでも人間の方には自覚がないことでも、彼に関わることはすべて彼の人生（と言うか）の一部になってその後の彼の性質に反映してしまう。だからと言ってやたらに神経質になるのではなく、むしろ最低限のことを守ったうえでその人らしく大らかに接してほしいと思っていた。北遙は北大にいる馬たちの中でも特に部員全員の馬でいるべきだという考え（本来部馬はすべて部員全員が管理する意識を持たなければならないので厳密に言えばずれた考え方だが）から、曳き馬や手入れなどサブチーフに任せられるところは責任を持たせてやってもらい必要以上にはタッチしないようにしていたのだが、これは馬体管理と運動管理を繋げる自分の役割を放棄していたことになった。実際には馬の状態などは乗るあるいは触る本人が感じられることであって、自分のやろうとしていたことはたいそうおこがましい余計なお世話だったのだが。

その他の問題点としては、運動管理を行なっている2年目に対して自分がどの程度口を出していくべきか、また運動管理責任者以外の下級生をどの様に指導していくか、などがあったが関係ないので割愛する。

運動に関しては、北遙をいちいち納得させて行なうことを絶対にした。始めのうちは彼の気分も考えずやりたいことを時間内に終わらせることだけ考えて乗っていたが、喧嘩ばかりで何も前に進まなかった。半減却を丁寧を使う、できたら褒める、できなかったら戻ってもう一度行なうなどで彼に何がやりたいのかきちんと伝え、励ますという形でようやくコミュニケーションが取れてきた。彼自身に騎手の指示を聞く気があるときには非常に素直で動かしやすい。扶助はいずれも軽く、不用意に拍車が入ったり彼が納得できない強い脚や拳を使われると思いきり反抗する。「それは違う」と伝えるときにはむやみに蹴るのではなく脚全体でしっかり挟み込むやり方が有効だった。緊張を持続できる時間も徐々に長くなっていった。

駆歩や減却、停止の時にまきこむ傾向があったがタイミングを見て脚を使い拳をゆるすことでかなり解消した。駆歩は当初ロデオだったが、これもはみを軽くゆるしてついでに普通の落ち着いた駆歩ができるようになった。拳が固いまはきついとくびが固くなってしまい、逆にゆるしすぎるくらいの方が大きい運動ができた。身体が柔らかいとは言い難かったが、横運動は下級生でも十分できる程度であった。はみ受けを気にしすぎたせいかはみ受けしている振りをすることもあったが、概ねはみ受けしやすく、要求が高くなると自分から求めてくることもあった。だが後肢の踏み込みが全般に甘く、身体全体を使った運動をさせられることは少なかったように思う。内からの確かな前進氣勢は試合前やシーズン後半には得られるようになったが、身体全体の正しい内方姿勢は常に求めていたにも関わらず、方法がまずかったせいか満足にできたのは数えられるほどで

あった。また常歩での動きがちょこまかとしてしまい、放棄手綱でもくびをがちがちに固定させたまま歩くのを治すことはできなかった。

馴致は構内、構外、他乗馬クラブなど数はこなしたが、場所が変わることよりも競技の雰囲気が問題であるらしく顕著な改善は見られなかった。

障害は春からやりはじめ、半沢杯の新人新馬に出場した。準備馬場では最高に良い状態であったのが本番では騎手の動揺から反抗を生み、それ以外にも2鞍使ったがいずれも失権でその後障害をこじれさせる要因となった。競技場の緊張状態に耐えきれず失権ということはそれまでにもよくあったが、冬季のブランクを経て練習や経路回りではトラウマを見せなかっただけに悔やまれる走行だった。競技後一か月ほど空けてから6-6-6のキャバレッティなどから再開し、基本的な連続障害を中心に専ら人間の練習に使った。北遙はいやだと思うと横木さえ跨がず強く出られない下級生は苦勞していたが、障害を飛ぶこと自体には（高さに制限はあったが）問題はなく、その前の準備運動共々練習になっていたと思う。8月末には練習ではメーター10のオクサーのある経路もこなしていたが、実際の競技では力は発揮できていない。

半沢杯では初めて馬場競技に3鞍使った。1鞍目に審判台を見て反抗失権という失態もあったが、そこそこの結果で回ってこられることが判りシーズン中下級生で馬場競技に使うことが決定した。馬場競技でポイントとなるが北遙が苦手な真直性、柔軟性、従順性に重点を置き、移行、横運動を多く取り入れた。競技場では興奮させすぎず適度な緊張状態を保って騎手の指示を待ち、聞くよう丁寧な運動を心掛けた。いずれの競技会でも最低限はクリアしていたが目立つ結果は出せなかった。しかし馬場競技にはいいものを持っているので乗る人が乗ればかなりの高得点が期待できるものと思う。

個人的な話だが、冬にチーフにあるまじき怪我をして練習を休んだ。馬体管理どころか自己管理さえできていず恥ずかしい。馬や部員の皆には迷惑をかけた。この場を借りて深くお詫びします。

岡田監督、宮浦先生、三木田先生、前田さん、横山さん、根気強い適切なご指導を本当にありがとうございました。

谷地、鏑木、河合、米家、鶴見、それから他の下級生の皆、一生懸命北遙に乗ってくれてありがとう。私は何もできなかったけれど、彼は多くのことを教えてくれたはずです。今後彼がどのような運命を辿ることになっても、彼に乗ったことを決して忘れないで自分たちのこれからに活かしていただきます。そのために今年彼は生きたのだから。

最後にエンゼル、部が勝てなくてごめん。

北凌号



騙 サラ 鹿毛
昭和62年4月10日生
浦河郡浦河町産
父 ハギノカムイオー
母 ハギノコトブキ
競走名 ハギノレジェンド
愛称 レジェ

北凌号調教報告

横山 勉

ハギノレジェンド号は、一昨年の夏に6才で北大に入厩してきた。入厩直後のレジェンドは、前号部報の新馬紹介の通りおよそ新馬らしからぬ落ち着きようで、競走馬時代に相当大切にされ、かわいがってもらっていたのだろうということが容易に想像された。

入厩当時、私を含めたOBはそれぞれ他の新馬を調教中で手が空いておらず、また現役の上級生も、シーズン中で新馬の調教を始める余裕がなかった。そのため、馬体に特別大きな問題があったわけではなかったのだが、調教開始は大幅に延期され、結局私が本格的に調教を開始したのは翌年の1月からになってしまった。

半年間曳き運動のみだったため馬体は丸々としており、私がそれまで調教していた北遙がとても線の細い馬だったこともあって、ゴムマリのようなレジェンドに最初に跨がったときの股関節の異様な開き具合に、とても驚いたことを覚えている。

レジェンドに乗るまで調教をしていた北遙は、私が初期調教から始めたわけではなく、前田さんから引き継いだ形であり、私が調教を引き継いだ頃までに、基本的な扶助やコンビネーション障害等の調教はほぼ終わった段階だった。それに対して今回は、競走馬として人を乗せること等は知っているとはいえ、まだ乗馬としての調教がされていない新馬を調教することになった。私にとってそれは未経験な領分であり、期待・楽しみというよりも、私くらいの知識・技術しか持たぬ者に新馬調教など本当にできるのだろうかという不安の方が大きかった。

当時、私は大学院1年目の冬で、私が本格的に調教することができるのは実質1年弱であった。レジェンドの調教の最終目標は当然、北大馬術部が団体で、二走或いは総合で全日学に出場し、団

体で入賞するための主戦馬の中の1頭にすることである。しかし、たった1年で新馬をそのレベルにまで調教するというのは、私にとっては所詮夢のような話である。そこでこの1年間では、L級レベルの障害経路を無理なくまわれ、調教審査レベルの馬場運動をこなせるくらいにまで調教することを目標に設定した。

やっと調教報告を書く気になったものの既に就職して札幌を離れ、黄色いヘルメットに安全靴のいでたちで、工場でいわゆる3Kの勤務をしている私である。1年前のこととはいえ、馬術部に毎日顔を出し新馬の調教をしていた頃は、大昔のことのように感じられる。そしてここまで書いたところで見事に不安が的中し、本論に入る直前に急に筆が重くなってしまった。現役の方々が書くような熱意のこもった立派な調教報告は諦めて、今でも覚えていることを2～3書くにとどめようと思う。

レジェンドは冒頭でも触れたように、曳き馬や手入れなどに関しては非常におとなしい扱いやすい馬である。そのため北遼の調教時はかなり性格で手を焼く場面が多かったが、レジェンドではそのようなことはなく、学生用の乗馬として調教しやすい馬であろうと予想していた。ところが実際に調馬索や騎乗調教を始めてみると、どうも彼の性格・思考回路には不可解な面が多かった。調教時は平常時に比べ、周りの騒音や人・物の動き、他の馬に対して非常に神経質になった。特に音に関してはそれが顕著で、例えば箱番が急に走り出したり、無造作に障害のバーを地面に落としたりすると、それがほんの僅かな音であっても突然狂乱して暴走する、というようなことが毎日の日課であった。十分に注意していても出てしまう音もあり、調教初期は非常に苦労した。しかし、特に対策を施したわけではないが、徐々に馬場の雰囲気慣れたのに加え、調教が進んで衡受けができるようになった頃には、騎乗者がしっかり乗ってしっかり持つことができれば少々興奮しても走らないようになり、暴走の数は減少していった。

調教の手段としては、大雑把に書くと、調馬索による馬体・頭頸の伸展及び衡の意識→騎乗による基本扶助→キャバレッティ→キャバレッティ・バー→コンビネーション、のように進めた。キャバレッティ調教当初はバーを平気で踏んでいたりしたが、継続するうちに治っていった。最も問題だったのは、単一の障害はある程度の大きさでも落ち着いて跳べても、コンビネーションになるとどんなに低くても興奮してしまい、跳ぶことは跳んでもゆっくりしたペースで通過できなくなってしまうことだった。コンビネーションはスピード・勢いで走り抜けても意味はなく、リラックスして力を抜いた状態で、ゆっくりとひとつひとつ跳ぶことに意味があると思ったので、とにかくゆっくりと跳ばせたかった。そこで、①キャバレッティ程度の高さのクロスバーだけのコンビネーションで練習する②間歩を少し短めにとってみる③常歩で向かう④飛越後、直線上ですぐに停止させる等の対策を施してみたものの、一時的にうまくいっても経常的な効果はなく、なかなかうまくいかなかった。結局騎乗者による原因が大きいのだと思うが、飛越中のバランスが不安定でリズム良く跳ぶことができないため、馬が無理な力をいれて跳ばなければならず、それが積み重ねられることで興奮させてしまうのではないかと思った。解決の方法としては、騎乗者が馬の飛越を邪魔しないですむようにもっと上達しなければならないのは当然である。しかし逆に、私くらいの技術レベルの者でも十分にのることのできる馬にするには、馬に自信を持たせるとともに、少々騎乗者のせいでバランスが崩れても落ち着いて跳べるようにすることが必要なのではないかという気がした。私

はレジェンドを、馬術部に入部するまで馬という動物を間近に見たり触ったりしたことが全く無かった新入部員でも、計画的に北大式初心者騎乗指導要項（第37号部報、前主将から参照）に沿った指導を受け2年目の夏まで騎乗練習を積み重ねれば、誰にでも乗りこなすことのできる馬に調教したいと思った。ただし、私達の代で作成した北大式初心者騎乗指導要項が、現在でも活用されているかどうかは不明である。

どのような方法・考え方でコンビネーションの調教を行ったかについて、簡単に触れておこう。障害の調教を、キャバレッティ→キャバレッティ・バー→コンビネーションという順番で考えた場合にまず基礎として、これだったら人・馬ともに興奮せずに、また興奮していても、この運動を繰り返すことにより人・馬ともに落ち着きを取り戻すことのできる段階というものを設定した。この調教報告の中では、これを基礎段階の運動と定義する。調教段階を高めていく中で何らかの壁にぶつかった場合には、一つ手前の段階に戻す。戻してうまくいって、馬が落ち着きを取り戻せばまた挑戦する。しかし一段階レベルダウンしても、その運動は落ち着いていれば難なくこなせることなのに、興奮してしまっているためにできないという事態が考えられる。そのような場合は、もう一つ前の段階に戻す。まだだめなら、さらに易しい段階にする。そうやっていくら前の段階に戻してもだめな場合には、始めに設定した基礎段階までレベルを下げる。そして基礎段階の運動を反復する中で、馬を落ち着かせるとともに騎乗者自身も落ち着きを取り戻し、また徐々にレベルを上げていくという感じである。

例えば、基礎段階として横木1本ならどんなに興奮していても大丈夫だ、という馬を調教していると。横木4本はなんとかこなせるようになったので、それらの横木に少し高さをつけたところ、興奮して跳んでしまったとか、嫌がって逃避してしまうという問題が生じた。その場合、できないことを無理矢理やらせようとするのではなく、まず高さをつけない横木4本まで戻してやってみる。しかし既に興奮、或いは自信を無くしてしまっていて、できるはずのことができない。そしてさらに易しくしてもだめな場合には、思い切って基礎段階である横木1本にまで戻し馬を落ち着かせるとともに自信を回復させ、もう一度徐々にレベルを上げていくのである。何だ当たり前のことじゃないかと思うだろうが、この最後の、必ず人馬ともに落ち着きを取り戻すことのできる基礎段階にまで戻すと言うことに気付かないことは、結構多いのではないだろうか？できるはずのことができないと騎乗者の方も興奮してしまい、よい結果は得られないと思う。この様に、3歩進んでも3歩下がってしまうこともあるかもしれない。しかしできない事、自信のない事を無理にやらせて失敗し、4歩・5歩と後退してしまうよりいい。そして、3歩進んで2歩下がるだけで済む日があれば、それは確実に進歩したのであり、それを積み重ねていくことにより基礎段階をレベルアップさせ、調教は徐々にだが確実に進んでいくのではないだろうか。これは1日の中では勿論、長期的な調教の中でも、また障害以外の調教でも、更には騎乗者の技術や下級生の指導にも当てはまる事だと思う。馬も人も、平常心で自信を持ってできるようになることが大切だと思う。練習・経路周りで落ち着いて自信を持ってできないことが、どんな馬でもどんな人でも多少は興奮し緊張する試合の場において成功する可能性は、非常に低いのではないだろうか。

レジェンドの場合、私が乗ればL級レベルの障害経路を周れるくらいにまで調教は進んだが、これは良い状態の時での話である。残念ながらこれに対して、前記した所のいわゆる基礎段階になると、キャバレッティ・バープラス兎跳び程度ということになってしまう。これは、調子がよければ

し級くらいは余裕で帰ってこれるが、一步間違っただけで馬が自信をなくしたりすると、経路を周る以前の問題にまで逆戻りしてしまう可能性があることを意味する。私の後継としては、4年目（当時3年目）の西村君が調教を続けてくれている。試合直前に多少無理することもあるだろうが、まず日々の継続的・反復的練習により、この基礎段階をレベルアップさせることを心掛けていってほしいと思う。

約1年間の調教で新馬をし級障害レベルにまで育てたという結果については、決して十分とはいえないが、必要条件は何とか満たせたのではないかと考えている。誰でも乗れる新馬を目指し、かなり早い時期から下級生を乗せてきた。その事によって一時期調教が停滞、或いは少し逆戻りしたこともあったが、あくまでも「誰でも乗れる馬」を作るという目的から考えれば、逆戻りではなかったと考えている。しかし油断はできない。これからレジェンドにとって最も大切な時期であり、今後の調教如何によって、全日学で活躍できるような主戦馬にまで成長するか、または今のレベルで止まってしまうかが決まるのである。このような中途半端な時期に調教を交代するのは非常に危険であり、また交代しなければならないのが非常に残念である。順調に調教が進めば、今年（平成6年）には北日デビュー、来年には全日学を狙えるくらいになるという所であろうか。今後のレジェンドの調教に関与する、チーフ及びサブチーフ、それ以外の全部員の活躍を期待したいと思う。

レジェンドの調教については、こんなところで勘弁頂こうと思う。あとは小話を2つ3つ。

馬術部を続けるということは時間的制約があまりにも大きく、大変な事である。特に上級生になると、クラブ全体の事・各馬の調教状態・下級生の指導など、話し合わなければならないことが多くなってくるし、学校も忙しくなってくるので更に厳しくなる。そこで、話し合っている余裕など時間的・体力的・精神的に無いから、そのうち時間があつたらしようということになってはいないだろうか？これは今の現役がどうこう言うのではなく、これから上級生になる全ての人に言いたいことである。自分の学生生活を犠牲にして、やりたいこともせずに、こんなに苦しく辛いことをしているのは何の為なのか？その年々の方針によって多少の相違はあるだろうが、皆で団結して全日学で活躍する事を目指してやっているはずだと思う。それなのに、上手くなる為に、勝つ為に必要な様々な話し合いを、練習やバイトで忙しく精一杯なことを理由に後回しにするというのは、ナンセンスなのではないだろうか？例えば、食事後に食べ物のカスを除去するのが本来の目的であるはずの歯磨きを、朝起きて朝食前に口腔内をすっきりさせる為にするのはいいとして、朝食前にしたからといって朝食後にはしないという人がいるのと同じではないか。本来の目的と、その目的を達成するために必要な行動を取り違えてはいけない。「暇があつたら・・・」などと考えていたら、馬術部を続けている限りいつまでもたっても暇などできるはずがない。本当に必要と感じ本当にやりたいと思うのなら、暇は待つのではなく積極的に作らなければいけないのではないだろうか。

そして、折角作った限られた時間を使って行う話し合いは、効率良く行わなければ意味がない。これは最上級生に限った事ではない。今度の9月から、或いは来年の9月から、最上級生として責任のある立場で馬術部を運営していくのにあたって、基本方針や同輩各人の役割分担などについて、3年目は当然のこととして2年目も話し合ってみるといいと思う。もちろん2年目の夏にそのような話し合いは不可能である。しかし今のうちから、馬術部全体の事について、自分たちの事について、上級生の事について、真剣に本音を出して話し合うことは決してマイナスにならない。いざ最

上級生になってから初めてクラブのことについて話し合おうとしても、なかなか、真剣に意見を出し合ってそれを一つにまとめるということは難しいものである。また馬術部の事、個人の事について話し合うことにより、各々が責任のある立場にあることを最上級生になってしまう前に認識できていないといけな。そうしないと意見が合わないことが原因となって、最上級生が突然何日も雲隠れしてみたり退部するなどという無責任極まりなく、また、下級生の信頼を全くなくしてしまう結果を導いてしまう可能性もある。自分が馬術部の最上級生の一員として、同輩に対して、下級生に対して、調教を依頼していたり練習を見にきてくれるOB・OGに対して、そして馬に対して、責任のある立場にあることを十分に理解できていれば、そのような無責任な行為を取るなどと思ひもしないはずである。最後までやり通す事ができないのなら、下級生のうちにやめるべきである。

また下級生も、自分たちも馬術部を運営している一員なのだというつもりで真剣に話し合い、意見を上級生にぶつけていかなければいけない。「上級生の考えていることが分からない」ということがよくあるはずである。でも、その疑問をそのままにして、全てを上級生の責任としてしまい、「自分たちはこうはならないぞ!」と思って黙っているのはよくない。最上級生になってからの一年間などあつという間に過ぎてしまう。本当に自分たちの代で馬術部を良くしたいと思うのなら、最上級生になってからではなく、今から行動を開始しなければ間に合わない。権力を握った一部の上流階層による独裁が、最良の道であるはずがない。何の為に頑張っているのか?もう一度考えてみてほしい。

偉そうな話を並べた後で最後に息抜き。「疲労回復」という言葉は、馬術部をやっているいいにかかわらず、度々お目にかかる言葉である。私はどうもこの「疲労回復」という言葉が気に入らない。なぜなら「疲労回復・元気回復・健康回復」というように3つの言葉を並べたとしたら、これらは全て同義語になってしまうからである。まさか「元気回復」や「健康回復」が「疲労回復」の反対語で、「疲れる」という意味にはならないだろう。しかしどう考えても、「健康・元気」に対して「疲労」は反対語である。「健康回復」は健康の回復、「元気回復」は元気の回復とすると、「疲労回復」は「疲労の回復」ということになる。どうも矛盾している気がしてならない。でも実際に「疲労回復」という言葉は、NHKを始めとして世間一般的に「元気になる」という意味で使われている。こう考え出すと、このままではどうしても「疲労回復」という言葉を使う気になれない。そこで「疲労回復」という言葉の不当性を明らかにしようと思い、「回復」という言葉を何種類もの国語辞典で調べてみた。すると多くの国語辞典では「元の通りになること」という意味だけだったが、一部の国語辞典にはこの意味のほかに「元の良い状態に戻る」という意味も載っていたのである。なるほど、「回復」を「元の良い状態に戻る」という意味で使っているのであれば、「疲労回復」も「疲労からの回復」→「元気になる」ということになり、意味は通じる。そういう訳で、私の長年抱いてきた疑問はいとも簡単に解き明かされてしまったのである。うーん、それにしてもへそまがりの私は、どうしてもこの「疲労回復」という言葉は素直に使う気になれないのである。だって「疲労回復」→「疲労の回復」→「疲れる」とするのが、素直な考え方だとは思いませんか?

失礼いたしました。これで終りにします。3年目の頃からかれこれ4年間もの長期に渡り、部報

に妙な調教報告を書かせていただきました。書かせていただいたこと、またその妙な調教報告を貴重な時間を割いて読んでくださった方々に感謝いたします。いろいろ反論はあるとは思いますが、私個人の一過性の考え方でありますので、どうかお気に召さなかった点については容認下さるようお願いします。大学卒業後の2年間は半分現役という感じで現役部員と付き合い、最も近い所から馬術部を見て、時には最上級生と喧嘩もして参りました。今後は他の多くのOB・OG同様、遠くから応援させていただきます。今後も部報に執筆するチャンスが与えられるのであれば、喜んで参加させていただきたいと思いますが、また妙な読み物を時間かけて作り、いたずらに発行時期を遅らせるだけですので考えものです。皆さんの一致団結した活躍を期待しております。目的・目標・夢・自信を持って頑張ってください。

岩城弘侑法律事務所

弁護士 岩 城 弘 侑

事務所／札幌市中央区南1条西10丁目南大通ビルアネックス6階
☎241-0797・251-2470

北鷲号



騙 ア・ア 鹿毛
昭和62年4月26日生
沙流郡平取町
父 エビタカラ
母 マイティスカレー
競走名 ライトセカンド
愛称 しゅう

北鷲号馬匹紹介

鶴見 直大

A：君はどうしておバカさんなの？
しゅう：お前に似てきたんだよ！
A：どうして耳を逆立てて怒っているの？
しゅう：人間に干渉されるのが嫌なんだよ。
A：どうして左手前がかたいの？
しゅう：お前が下手なんだよ！
A：どうして単独脚がきかないの？
しゅう：お前が下手だからだよ！
A：どうして扶助に鈍感なの？
しゅう：お前が鈍感だからだよ！
A：どうして頭を上げて走るの？
しゅう：お前が下手だからだよ。
A：どうして障害をゆっくり跳ばないの？
しゅう：お前があせらすからだよ。
A：どうしておなかが痛くなるの？
しゅう：お前に似てデリケートなんだよ。
A：どうして牝馬ばかりつけているの？
しゅう：これこそお前に似てるんじゃないか！

A：部員の中で誰を一番信頼しているの？

しゅう：そりゃお前だよ（恥ずかしがりながら）。お前が行く所はどこだってついてくぜ。

A：一緒に頑張ろうぜ、しゅう。

しゅう：仕方ねーな、お前がそこまで言うならちょっと気合いいれてやるか。

ところで話はころっとかわって、オレが言うのも何だけどな、お前学校に行ったほうが
いいぞ。

A：・・・・

信頼を生む確かな仕事を



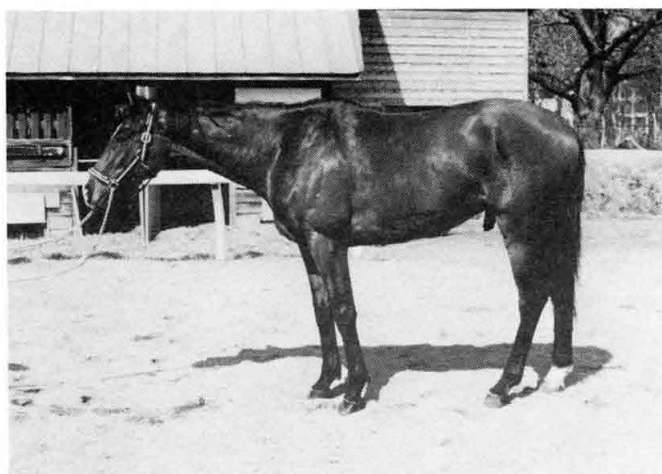
協信電気工業株式会社

代表取締役会長 加藤 弘

代表取締役社長 加藤 勝利

本 社	〒060 札幌市中央区北13条西15丁目	旭川支店	〒070 旭川市近文町21丁目
	☎011-736-8311 JR021-2794		☎0166-51-0971 JR024-3288
東京支店	〒124 東京都葛飾区新小岩3-9-2	鋼路営業所	〒085 鋼路市若草町8-12
	☎03-3674-8640 JR057-2388		☎0154-22-2723 JR027-2588
函館支店	〒040 函館市大川町6-22	小樽営業所	〒047 小樽市長橋2-2-15
	☎0138-41-6995 JR023-2829		☎0134-22-6434

北旋風入厩報告



騙 サラ 鹿毛

平成2年3月26日生

父 アスワン

母 ティーjeeブイ

競走名 トルネード・ダンサー

愛称 トルネード

杉野 正之

今年の札幌開催で競争馬として走っていましたが、惜敗が続き、引退を期に北大で乗馬として第二の人（馬）生をおくることになりました。性格は新馬とは思えないほどおとなしく、珍しい物には恐怖心より先に好奇心をいだくなど、なかなか度胸もすわっている（ポーッとしている？）ようです。とはいえ彼もまだ4歳馬であり、まだまだ新しい環境に順応できないところもみせます。彼があまり何もいわないからといって、人間が無神経にならぬよう、部員の皆様にも心がけてほしいものです。

現在、前主将の八木さんに調教を進めていただいています。彼の活躍をご期待ください。

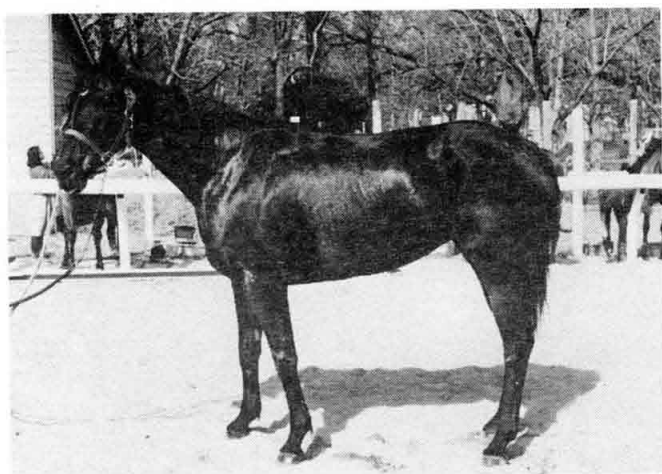
学生さんにはネタもシャリもジャンボ
とにかくジャンボ ネダンと同じ

舌鼓 鮎 の 正 本

コンパは30名様までと40名様まで 11:30~12:00 30

北16西4 北向 ☎746-4231

フライト入厩報告



牝 サラ 黒鹿
昭和63年5月9日生
父 サーカペード
母 カミノダイナ
愛称 フライトちゃん

河合 由枝

1993年11月27日、S53年卒長屋さんが調教されたフライト号がモモセファームより、北大に入厩しました。

入厩当時は、どこにいても落ち着かない様子で、馬繋台に入ろうとせず、放牧地でさえも行くのを嫌がり、しきりに前がきを繰り返していた彼女も、今では放牧地でゴロゴロ寝転がったり走りまわったり、時にはぼおーとしていることさえできるようになりました。

今では、すっかり北大の環境に慣れ、牝馬らしく気高いところを見せる反面、ちょっとやんちゃでさびしがりやな一面ものぞかせています。

彼女には、北大の驢馬たちも目を奪われ、放牧地で追いかけられるというハプニングもありましたが、いずれは全国の人々が目を奪われるような名馬になってくれることと期待されています。そんな周りの期待をよそに、今日も放牧地を駆け回っている彼女は、ちょっと臆病だけどいざという時には勇敢に立ち向かえる勇氣を持っているところがすごい。

フライト、女の子は強いんだってことをみんなに教えてあげようね。

Flowerist
葉花園

〒001 札幌市北区北18条西4丁目
TEL **737-6241**
夜間 (011) 737-6724

四季おりおりの花を
美しいデザインで
お届けいたします。

慶弔用花籠・二段スタンド
ノーブル・アレンジメント
花束・ブーケ・コサージュ
手造りのアートフラワー
花材一式etc



西村 雅夫

全日学も終わってシーズンオフに入り、馬場も凍りはじめた11月27日、彼は北大を後にしました。平成元年3月入厩後、期待されながらも素質を発揮する事はずいぶんありませんでした。彼の能力については誰もが認める所です。その一方で神経質で繊細な性格にも誰もが悩まされたのではないのでしょうか。一度嫌がったらどうにも言う事を聞かず、また、シーズンに入る度に体のどこかに故障を発生し、満足に過ごせた年はありませんでした。今年も右腰からの跛行がひどく、ほとんど競技会への出場も果たせないまま、結局、試合で使えない馬であるという理由で離厩が決定しました。

自分が彼と接したのは、決定してからの3か月ほどで、離厩までの馬体維持に終わりましたが、その短い間でも彼の扶助に対する反応と動きから学ぶ事は多くありました。休ませつつ乗っていたという事もあって、離厩前には跛行もほぼ引き、腰を気にすることもなく十分に運動ができる程に戻っていました。

離厩先は、北楡、北凜と同じモモセR. Fです。広々とした環境の中で、のんびりとやっていけるのではないのでしょうか。

有限会社 菅原写真商会

パスポート写真
カメラ・カラープリント
3分間写真
各種証明写真

北22条西4丁目 ☎ 716-2662



北皇子号離厩報告



鎗木 照夫

北皇子は、12月19日に、晴れて引退し、はじめにギャランを調教した川俣さんのもとの帯広の糠内ポニーファームに旅立ちました。今までのギャランの戦績をみると、18才とはいえ離厩させるのはもったいなく、もっともっとたくさんのことを学びたかった。また、自分の技術がもっとあれば、あと一年ひきとめて、全日学をめざすことも十分できたとも思い、残念である。ギャランに乗っていた歴代の先輩方には、すまなく思う。また、ギャランには、“お疲れさま。今までどうもありがとう”と言いたい。

僕のギャランとの出会いから、運動管理をまかされてまでの思い出は、たくさんあるが、考えてみればギャランは、人生（馬生？）4分の3は北大馬術部にいたわけで、馬術部の厩舎が言わば自分の家のようなもので、そこを離れるのだから、相当ショックをうけたことであろう。離厩のとき馬運車に乗せようとするといやがったのは、頭の良いギャランのことだから、何かを感じとったにちがいない。試合で、どこかへ行ったときでさえ、餌を食べないで興奮するのに、増して、一頭で北大の厩舎から離れるので心配である。でも、心配してもしようがないので、あとは川俣さんへすべて任せて、ゆっくりした余生をおくってほしい。

本当にお疲れさま、ギャラン。いつか会いに行くから、その時はよろしくね。

離厩後の北皇子号の様子について、川俣由美子さん（57年卒部）よりお手紙を頂きました。

馬術部の皆様、

94年1月13日

元気に練習しているのでしょうか？ギャランが十勝に来て1月がたとうとしております。引き取らせていただき、ありがとうございます。こちらは札幌より寒いですが、冬毛がすぐたくさんはえて、そんなに気にならないようです。毎日、大きな栗毛の乗用馬と明け3才の栗毛の雄馬と一緒に放牧され、夜は厩舎の中に入れてもらっています。この3頭の栗毛の関係はなかなか面白く、大きな栗毛がなんといってもボスの存在。常にいばっていて、ギャランは彼に近寄らないようにしています。明け3才の雄馬は遊びたい盛り。今まではボスが遊んでくれなかったので、ギャランが来てくれてものすごくうれしそうです。しょっちゅうギャランに「遊ぼう」とちょっかいを出しては、「うるさいなあー」と言われて、の繰り返し。しかし、何か不安なことがあったりすると、ギャランはこの3才にべったり寄り添って、守ってヨーのポーズに入ります。19才のじいさんが3才の若僧を毎日たよりにしているようです。来たばかりの頃は、3才が遊ぼうとちょっかいを出すと、ギャランはまるで雄馬にいいよられた発情している雌馬のように、短く「ヒン、ヒン」としょっちゅう言っていました。いよいよギャランもおカマになったんだなと思いました。隣の放牧地には去年生まれたばかりの明け2才馬が10頭近くおり、ギャランは彼等の近くにいたのが好きみたいです。下は、悪いし、蹄鉄も後ろだけとってしまったので、ほとんど乗っていません。子供を常歩で乗せているくらいです。毎日、のんびりとした生活です。でも、野生に戻って若くなったような気がします。3才がしつこくすると、蹴ろうかな、立ち上がろうかなというそぶりをみせるのですが、長年そういうことをやってはいけないと教えられているので、人（馬）生観を変えないといけないのかと本人は悩んでいるようです。しかし、この3才とギャランはものすごく仲良しです。とりあえず本人はここにすぐ慣れたようです。ギャランに会いたい人はどうぞ来てください。以下のところにいます。わかりづらい場所なので、私に連絡をしてから行った方がいいかもしれません。肉牛が数百頭、馬が60頭ぐらいいる、畜大のOBの尾上さんの牧場です。

糠内ポニーファーム （幕別町糠内）



ギャランとの思い出

西川 理一（昭和55年卒部）

それは忘れもしない、今から十年前…、いや、もう十五年前になるのか。そう、忘れもしない昭和五十四年の夏、いや春だったか。ハーバー・ギャランを札幌競馬場から一升ビン二本を御礼に、曳き馬で連れてきたのが、彼と僕との、そして北大馬術部との最初の出逢いだった。（アーアーアーアー…北の国からのBGM）

僕が一・二年の時、北大はまさに黄金期だった。スターライト、ドンホッパーという名馬と乗り手が揃い、全国大会で優秀な成績を残していた。しかし、僕達が三年の時から、少しずつかげりを見せ始め、危機感を抱いたのは僕だけではなかったと思う。次に中心となる馬。それも、どんな学生でも乗れる素直で従順な、そして丈夫な馬が欲しかった。

そんな時、入ってきたのがギャランだった。

僕にとって、初期調教は初めてのことであったが、とにかく馴致から始めた。曳き馬で色々なものを見せては営めてやり、その物と範囲を広めた。そんなある日、一つのアクシデントがあった。馬場内で低いレンガを曳き馬で飛んだ後、珍しくギャランがはね、その左後肢が僕に当たった。それもこともあろうに、男の大事な〇〇〇〇にだった。勿論僕はその場に倒れた。というより、うづくまった。すぐに後輩が来て「大丈夫ですか？」と聞いてくれたが、大丈夫な訳がなく、言葉さえも出せなかった。間もなく救急車が来て、うづくまったままタンカに乗せられ入院した。パンツが破れ、片方の〇〇〇〇も切れていた。一瞬、将来子供が生めるだろうか（僕が生む訳ではないが）という思いが頭をよぎった。（十五年たった今、人並に二児を授かった。皆さん、御心配をかけました）（誰も心配せえへん）

まあ、そんなこんなで、とにかく馴致を中心に、簡単な扶助を少しずつ教えていった。そして、脚を教えられるようになり、ハミ受けも徐々にできるようになった。障害も向けたら自ら飛んでいくように、障害大好き馬になるよう、飛んだら営める、飛んだら営めるということを繰り返した。そして、もう一つ注意した事は、僕が乗っている間に中障害を飛べるようにして、次に引き継ぎたいということだった。

春のケンタッキーでの試合。小障でゴールを切った。結果は四位だったが、一年生達がまるで優勝でもしたように喜んで走ってきたのが印象的だった。僕個人にとっては、学生時代に自馬で入賞することはとうとうなかったが、それよりも大きいものを得たという気がした。

そして、割と順調に、夏には帯広で中障Bのオープンでゴールを切ることができ、一応自分のつとめを果たせたと思った。

その後は、今度ギャランを引きとってくれた折橋（現 川俣さん）そして、名越、町田と引き継がれ、夢にしてみてもいなかった全日学での入賞も果たしてくれた。

入った当時は、「足が細い、細い」と言われながらも、よく頑張ってくれたと思う。まさに、馬版「細うで繁盛記」だ。

ギャランよ、十五年間御苦労様。

本当にありがとう。

東京OB会だより

今年の冬は、関東方面でも何日か雪が積もり、学生時代に毎日見ていた美しい雪の朝景色を楽しむことができました。現役の皆さんは今頃、厳しい寒さの中大きな声を張り上げて、練習に励んでいることと思います。全国のOBの皆さん変わらずお元気でしょうか。今年の東京OB会の活動をご報告いたします。

《平成5年度活動報告》

1. 総会・新年会 2月13日 レストラン高松
出席OB26名

今年はしゃぶしゃぶを食べながら、昨年の活動、会計報告、今年の現役への援助などについて話し合いました。

2. 観桜会 5月9日 馬事公苑
出席OB24名 ご家族ご友人を合わせて約50名

観桜会というには少し遅くなってしまいましたが、今年も東園会長のご厚意によりたくさんのラム肉が提供され、ご家族ご友人共々皆でジンギスカンを楽しみました。

3. 現役部員との懇親会 11月10日 馬事公苑
出席OB18名 現役12名

今年もたくさんの現役と共に飲み語る事ができました。当日北大人馬が出場する競技が無かったのが残念でしたが、関東のOBが現役と馬と会える唯一の機会楽しく刺激のある話のできたのではないかと思います。来年は更に多くの人馬が顔を見せてくれる事を期待しています。

4. FAX寄贈

今年はOBからの要望もあり、札幌の部室にFAXを設置致しました。このFAXを使ってOBと現役のつながりが更に密になればと願っております。もちろんこの原稿もFAXを使って電送する予定です。

FAX番号は電話番号と同じ011-737-1626です。

《事務局より》

昨年の春、1年間事務局を務めて頂いた平石さんが転勤のため関東を離れ、現在事務局の運営は事務局長を本村、事務局を平山が担当し行っております。今年も皆様のご協力のお陰で無事例年通り幾つかの会合を持ち、楽しい時を過ごす事ができました。今後も関東在住のOBの交流の場として、そして現役とOBのパイプとしてうまく機能するようこの会を盛り上げて行きたいと思いますので、よろしくお願い致します。何か要望等ありましたらOB、現役を問わず事務局までご連絡下さい。また、関東方面へ転勤になられた方、及び事務局の手違いで連絡が届いていない方など、

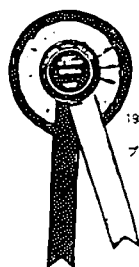
もしありましたらご一報下さい。

北大馬術部東京OB会

会長 東園 基文

幹事長 樋口 正明

(記 事務局 平山)



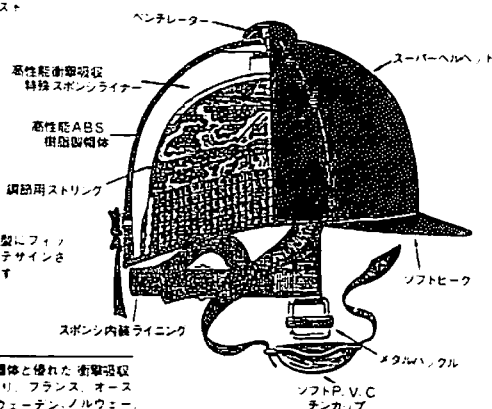
ウエンブレワールドキャップ

1987年「Seoga」(西独) 馬馬協門
インターナショナル・ベスト
プロダクト金賞 受賞

Wembley
THE WORLD APPROVED SAFETY CAP

¥16,000

・日本人の顔型にフィッ
トする様にデザインさ
れております



「確
かさの証明」

世界に駆ける…ウエンブレ

WEMBLEY WORLD CAP は高性能ABS 樹脂帽体と優れた 衝撃吸収
機能を持つ特殊スポンジライナーを使用しており、フランス、オース
トラリア、アメリカ、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、
デンマーク、すべての安全基準テストに合格した、世界唯一のライテ
ィングキャップです。



国内総販売元

カバロ株式会社

〔カバロ神戸〕 神戸市中央区磯上通6丁目1-17 ¥651
ウエンブレビル1F TEL: 078-251-6620代
〔カバロ大阪〕 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号 ¥530
大阪駅前第2ビル 2F TEL: 06/344-0070
〔カバロ東京〕 東京都港区田町2丁目3-1 106 ¥158
パンフレット 同業公認 TEL: 03-425-8844

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎ 726-1526

OBの輪

OBの方の、馬に対する様々な思いを
書き綴ったページです。
原稿をお寄せくださいましたOBの皆様、
ご協力ありがとうございました。



昭和22年卒の和田晴さんが、この度
北海道新聞社から『馬券ばかりが競馬じゃない』
という本を出版されました。和田さんのお許しを
頂き、その一部を抜粋、掲載しました。
和田さんにはこの場を借りまして、深く御礼
申し上げます。



学生馬術に魅せられて（ホップ）

〔学生馬術の追想〕

◆一冊のアルバムから

和田 晴（昭和22年卒部）

馬には全く縁のなかった私が、馬とのつき合いが始まったのは、昭和十七年北大予科に入学、勤められて馬術部に籍を置いたのがキッカケであった。

既に前年十二月に太平洋戦争が開戦しており、逐次戦況が熾烈を極め、昭和二十年終戦という、大半が戦争という特異な時代背景の下での学生生活は、ガムシャラに何かに自分をぶつけて行く、若さの捌け口を求めていたのであろうか、予科生活の三年は馬に没頭していった。

その余韻が後半の終戦、戦後の時代に尾を引き、本科の専攻は馬学の教室に入り、高松教授の最後の弟子として卒業する道を選んだ。馬とのつき合いのキッカケが、大きく私の人生の方向づけをしたと言えよう。

私を没頭させ、私の人生に強力な影響を与えた学生馬術についての体験は、先に北大馬術部部報（平成二年度、№三六号）に「一冊のアルバムから」として寄稿したが、その内容を補足、修正しながら以下追想していきたい。

◆先の千切れた長靴

旭川合宿中の出来ごとで、思い出すと今でも背筋が寒くなるような、忘れられない滑稽であるが笑えないことがあった。

十二月の合宿の或る寒い雪のチラツク日のこと、野外騎乗出雪の積もった練兵場に隊列を組んで出掛けた時のことである。一年先輩のK氏の乗馬が、何に驚いたのか突然狂奔し、雪を蹴立て走り去った。驚いてどうしようかと協議していると、K氏が遠く霞んだ雪煙の中からトボトボと一人で歩いてきた。

見ると右足の先が半分むきだしの裸足である。聞いてみると『狂奔した馬を制し切れず、飛び下りようとしたら右足の鎧がはずれず、逆さにぶら下がったまま暫く走った、どうなることかと思った途端、靴の先端が千切れて助かった』と言うことであった。

幸か不幸か、当時物資が不足してきた時代で、長靴などは中々手に入れ難かった。彼の履いていて長靴は豚皮の半張りを打った中古の品であったため、鎧が半張りの皮に引っ掛かり、しかも皮の強度が体重を支え切れるほど無かったため、先端が千切れて命拾いをしたものであった。馬はそのまま走り去り、何事もなかったように厩舎に帰っていたという、笑えないエピソードであった。

（1）鎧は深く踏んではいけない。（2）いかなる時も手綱は絶対放さないこと。（3）狂奔した馬からは飛び下りようとしなないこと。（4）乗馬靴は半張りを打たない、半張りを打つときは踵皮連結するよう靴底全体に張ること。

先輩が命懸けで教えてくれた教訓が四十五年経った今も鮮明に残っている。

◆今津中尉と幻の勒

旭川の騎兵第五部隊の中隊長は、今津中尉と言う若い未だ学生気分の抜け切らない快活な青年将校であった。一週間の合宿期間中、直接私達の指導をして呉れたのは、軍曹、曹長の上級下士官の皆さんで、実践的な厳しい訓練を受けたが、時々中隊長自ら軍務の合間を見ては馬場に出てきて、私達と共に馬場馬術、障害飛越を行ない、時には野外騎乗に出掛けたり、親切に指導してくれた。と言うよりむしろ自分で馬に乗るのを楽しんでいるようで、暇が出来ると私達を中隊長室に呼んで雑談をし色々な話をして呉れた。

特に記憶に強く残っているのは、今津中尉の実家は、当時日本中に広く出回っていた「イマヅ蠅取粉」という殺虫剤を製造していた製薬会社で、彼はその御曹子であった。経済的、家庭的に恵まれた環境の中で育ったヤンチャ坊主という感じで、年齢的にもそう隔たっていない我々学生と話しをするのが楽しいと、机の上に足を投げ出し、寿司屋の厚い茶碗を両手の掌に包んで、熱いお茶を『フーフー』と啜りながら話しをし、私達もつい引き込まれて中隊長室一杯笑い声に溢れたものであった。たまたま話題が馬術のことになる、目を輝かし頬を紅潮させて談論風発止る所を知らぬ位であった。

そしてある時、彼が考案した一本の勒を見せてくれた。それは、我々がそれまで使っていた（現在でも使用されている）大勒・水勒とは全く違った構造で、「一本の手綱の扶助で、大勒と水勒の機能を同時に果たすという発想からうまれたものである」と言われた。そして彼は『この勒を使って西大尉につづき日本代表としてオリンピックに出場優勝したい』と夢見るような眼差しで遠くを見詰めていた。

今私の手元には、今津中尉がこの勒を装着した愛馬「勝谷」に騎乗、カマボコ型障害を見事に飛越している一枚の写真が残っている。

その後、熾劣な太平洋戦争で第五部隊は何処の戦線に向かい、どのような戦いをしたのだろうか、オリンピック出場の夢を抱いた青年将校のその後の消息は、全く知るよしもない。

現在、全国的に馬術が普及をし、日本代表がオリンピックにも出場するようになったが、未だ今津中尉の考案した勒が使用された例が紹介されたことを知らない。戦争の中に埋もれてしまった、熱烈な情熱を馬術に燃やした一人の青年将校が、果たせなかった夢を託した勒が日の目を見る機会があれば、と思いここに紹介してみよう。

〔幻の勒〕

☆大勒にあたる勒は、馬蹄形をしており、上部に鼻革にまわす環が付き、勒の先端は手綱に連なっている。馬蹄形の円形の内縁は水勒に接するように装着され、グルメットは使用しない。

☆水勒の環は大きく、平板型となり、大勒の運動を外さないように、そして運動を阻害しないような構造となっている。

☆手綱は大勒にのみ装着、水勒には付けないで一本手綱とし、手綱を絞ることにより馬蹄形の部分が水勒馬術に柔かく作用し、水勒を絞った状態になる。又、勒の形態から梃子の作用で鼻革を下方に引き下げ、鼻梁を押さえ馬が頭部を上げるのを防ぐ、これはグルメットのように頤を締め上げる強い刺激の扶助と異なり、ソフトな扶助で馬の収縮運動を取らせ、沈静化にも効果がある。

*以上の構造を、記憶をたどって図示してみたが、全体のサイズ、細部の寸法等の詳細はここではふれていない。この一文が、馬術の道を志す方の興味を喚起することが出来れば、私の胸中深くに秘めていた今津中尉の夢に報いることになるかと信じて、紹介をするものである。

◆安達さんと大坪流極意

私の二年先輩の安達さんは、小樽中学の先輩で、家も近かったこともあって非常に可愛がられた。安達さんのお父さんは庁立小樽中学校の大先輩で、後に小樽市長になられた方ですが、当時は稲穂町で安達医院を開業しており、乗馬が趣味で病院の裏に馬小屋を造り、「第十二千里」と言う栗毛の牝馬を飼っておられた。

安達さんはその影響を受けて、北大予科の医類に入学と同時に馬術部に入部し、乗馬を楽しんでいた。私は中学の後輩で、家も近かったこともあり良く面倒を見て頂き、お宅に伺い「十二千里」に乗せて頂いたりした。

特に、安達さんが予科三年終了の頃から、結核の為に休学するようになってからは、お見舞い旁々良く馬の運動をお引き受けし、小樽・花園公園に馬で出掛けることが多かった。

お宅にお伺いすると、馬や馬術に関する本を色々出して来て、馬術の知識を教わった。

その中で、特に面白く印象に残ったのは『大坪流の極意』で、その要点は今でも記憶に残っている、曰く…☆目は遠山の月を望むがごとく、(手綱は)引かず緩めず、縮緬の皺…。

又更に加えて、鎧は、煎餅を挟んで潰さぬように踏む…と言われた。

いま思い返してみても、実に簡潔にしてその真髄を突いた言葉と言える。

初心者に乗馬を教えるとき、先ず姿勢は正しく保ち、頭を正面に真っ直ぐ向け、背筋を伸ばして前後傾をしない、肩の力を抜いてゆったりと…云々、教える為の表現に非常に苦労する。

これを要約すれば一言『目は遠山の月を望むがごとく』なんと当を得た言葉ではないか。

又、手綱は前後、左右への扶助として、最も基本的なもので、乗り手の意思を馬に伝えようと、操作がどうしても強くなりがちなものだ。しかし、人と馬との意思が一本の手綱を通して通い合うには、ソフトな扶助の操作で出来なければならない、馬の馬術と人の拳を繋いでいる革の手綱が、恰も絹で出来た縮緬のように、そしてその微妙な皺が伸び縮みしない位軽い扶助で、意志が通い合わなければならないことを教えている。本当の高等馬術の、基本技術の極と言わざるを得ない。

免許皆伝、極意と昔の武芸は微妙な言葉の味のある言い回しの中に、技術の神髄を教えていることに深い感銘を受けた。

爾来私は馬に乗る度に、呪文のように常に唱えるようにしたが、これを実行に移せるように自分で満足出来る、馬と乗り方に恵まれた機会は残念ながら未だない。

昨年ノーザンホースパークを訪れた際、乗馬マネージャーの広瀬さんにこの話をしたところ、「成る程これは面白い」と早速乗馬指導に取り上げて『ハイ乗ったら、目は遠山の月を望むが如く…』とお客さんの指導を始めたので、思わず笑ってしまったが、その後なかなか実効を挙げているそうだ。

安達先輩は、その後学業半ばにして病魔に犯されたまま全治することなく他界された。又他にも馬術部で同僚であった、本庄、岡本の両君も同じ病気で学業半ばにして他界している。戦前戦中の若い命が多く蝕まれた結核が、不治の病として致死率が非常に高かった時代であった。

◆馬に乗ったら「ヤジロベエ」

馬に乗って一番先に先輩に教わったのは、「ヤジロベエになれ」であった。

最初馬上の人となった時、その意外の高さに先ず驚く、そして次に「こわい」との恐怖感から知らず知らずに、首、肩、肘、手首、腰、内腿、膝、足首夫々の部分に力が入り、全身が硬直してしまう。人は恐怖心を持つと本能的に何かに縋りたくなるものだ。

「ヤジロベエ」は身体を中心点でヒョイと支え、両側に開いた分銅でバランスを取っているだけで、不安定のように見え、ブラブラと何処にも力が入っていないが支えた指が上下左右どちらへ行こうが、実に安定して何時迄も立っている。

熟練した人の乗馬姿を見ると、全く全身何処にも力んだところがない。

首は肩の力が抜けて楽な姿で重い頭を安定良く支えて、背筋から腰まで一つの線を形成している。又肩から肘、手首何処にも力が入らずゆったりと手綱を持つ指に迄連がって居る。太腿、膝、は軽く鞍に接し、これに連がって脛、ふくらはぎ、足首はグラリと下がっているようであるが、踵がキチンと下げられ僅かに緊張感を感じる。

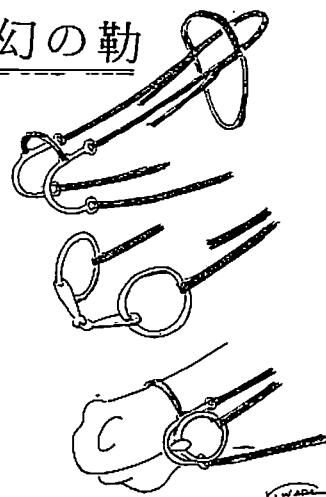
人の運動の筋肉は、体格、性別、年齢、鍛え方等によりまちまちであるが、筋肉を動かそうとする場合は、緩めている筋肉を締めることにより力が加わるもので、刀を持つ手が振り下ろされて物を切る瞬間、ゴルフのクラブを握っている指が、ショットの瞬間それぞれビシッと締まるのと同じである。

何時も緊張のあまり膝を常に締めていたら、筋肉は疲れ切っていざと言う時には使いものに成らないであろう。馬を取す時のポイントは、人の意志を馬に伝える扶助の使い方と、馬の気配を敏感に受けとる銜と膝にある。そして馬の運動は総べて推進から始まり、推進で終わる。馬を前に押し進める為の扶助は、膝を締め、踵で馬の腹を押すか蹴ることにより前進する。この時馬を前進させる推進力は、後肢の瞬発する力によるものだ。後肢で発した推進力は背中を通り首筋から項をぬけ銜、手綱を経て手に伝達されるのである。

この微妙な感覚を伝える通信が、身体の何処か一ヵ所でも固くなって滞ってしまうと、人と馬の意志は通じ合わなくなってしまう。

馬に乗せて頂いている間とはとにかく、人が馬と一緒に運動をしようとするならば、この扶助感覚の基本を身に着けることが必要であり、人馬一体の妙技は、ヤジロベエと銜感覚から生まれてくると、教え込まれ、馬術の神髄が、「ヤジロベエ」とは明言で面白いと、今にして思い出しても人に伝える価値があると思っている。

幻の靱



幻のインターハイ

小池栄一（昭和18年卒部）

それは昭和10年の春のことである。当時はよく旭川騎兵第七聯隊で合宿練習をしたもので、その年も東京の陸大におけるインターハイへの出場予選が行なわれ、私は予科2年生として参加した。当日はたしか快晴絶好のコンディションであったと思う。

障害飛越は2回の合計失点で争われたが、入部まだ1年の私はどうしたことか、ベテランの諸先輩に互して堂々？失点0で優勝してしまったのである。大障害も入ったこととて自他ともに唖然としたのは勿論のこと、相撲で言えば幕尻が三役以下を総なめにしたようなものであろうか。大会は休憩を宣せられ、ようやく審判部長からの発表！『優勝は小池選手とする。なお只今から全国大会への出場者を決めるため上位5名により決戦を行なう』

全国大会出場権は確か2名であったと思う。

なんと無念な審判のこと、しかも今度は鎧を外しての戦いである。結果は火を見るよりも明らか、落馬しただけ幸いであえなく敗退の浮目を見ることになった。結局最初は非常に良い馬に当たり、馬が飛んでくれたということであろう。残念ながらその馬の名は忘れたが。

当日の審判部は騎兵将校、学部先輩達で騎座、脚の力を見抜いた立派なものと思嘆させられた。もしも、あの時そのまま陸大の大会に出場していたら……と思うと今も背筋が寒くなる思いがする。

そのお蔭で一念発起、翌年は出場を果たし全国3位の成績を上げることができたので、あの時の審判部の温情あるご指導に今も深く敬意を表しているところである。なにごともしっくりとは通用しない。

追記：平素、部のことに何の力もお貸しできない罪亡ぼしに駄文を呈しました。部員の皆さまのますますのご健闘をお祈りします。

近況報告

中畠孝幸（昭和54年卒部）

三重大で留学生に日本語を教えています。卒部して15年近くになりますが、馬術部にいてよかったと、このごろになって思うようになりました。馬とは無縁の生活ですが、馬を調教するときの辛抱強さ、馬に反抗されたときの落ち着きといったものが、現在学生や5歳の娘と接するときに生きているように思うからです。馬術部で獲得したのは技術ではなく、人間性だったようです。普通ならバニックに陥りそうなきも悠然とかまえていられます。これは馬術部のおかげです。

北大予科生「大西誠一君」を追悼す

木全 幹雄（昭和21年卒部）

この度北大馬術部後援会の部報編集委員より、現役時代の思い出を投稿されたしとの来信がありました。すでに引退久しい私が、今更ながらの感なきにしもあらずですが、その昔虚しく散った馬術同好の大西 誠一君を僚友数名と茶毘に付した因縁から、長年温めていた同君追悼の漢詩を披露し、改めて同君の霊を悼むものであります。

昭和18年、戦局次第に長期化の様相となり、遂に北大生（含予科生）全員に対して、樺太の国境線に近い上敷香に急造中であつた、前進飛行場の構築支援作業への協力要請が下令された。。私は先遣隊の責任者宇野教授に、僚友宇都見千之助（馬術部）と共に同行を命ぜられ、先行して本隊受入れの準備に大奮であつたが、間もなく殆ど全員の予科生が上敷香川の流域に展開し、ソンドラ地帯の林の中に点在する大型幕舎に露営して支援作業を開始した。

夜間ジャングルのような林の中では、そこかしこの足元や朽ち木の枝がボーッと燐光を發し、夜間通行にはいささか役に立ったが、不気味なること甚だしく、深夜独りで野外便所に行くのに怖じ気をふるう者もいた。

周辺の大気は塵埃が少ないため透徹度が高く、気温はさして高くないのに透過赤外線が多く、全員漆黒のように日焼けして、中には急性の皮膚炎に苦しむ者も出た。

やがて一部に発疹チブスらしき疫病が発生し、流域全域には厳重な防疫管制が下令され、生の飲料水は厳禁となり、毎作業後沸水車からの熱湯を飲まされるのには閉口した。徹底した加熱給食のせいカビタミンの不足を訴える者もあり、急遽後方から運送されてきたお化けのような極大のキュウリ一本を支給され、苦味に顔をしかめて無理やり嚥下したものである。

某夜半、就寝中の大西誠一君がガバッと半身起き上がったかと思うとバタンと倒れた。不審に思った隣に就寝中の柄多慎二（私の同級生）が、最初は冗談半分に胸へ手を当てたところ音信なく、仰天した同君等が本部へ急報してきた。

早速同地に駐屯していた部隊から軍医が駆けつけ、ビタカンファー等を注射するなど手を尽くしたが、遂に彼の魂は戻ってこなかった。早速御実家への電報が手配された。

同君の御遺骸は大型幕舎の中に安置され、連隊本部からも連隊長等が激務の中を弔問に訪れた。野戦の方式に則り、彼の僚友諸君が骸衛兵（カバネエイヘイ）として一時間交代で一晩中御遺骸と御灯明を守った。

燭光の光が微かに瞬き、死臭が一面に垂れこめ、どこからともなく殺到してきた大型のカラスの大群が幕舎に体当たりするバサッ、バサッという音と、異様な彼らの鳴き声に脅かされ、その一夜は一入長く感じられた。

翌日御実家より「是非現地へ参り、遺骸に一目会いたし」との御要望が着信した旨伝えられたが、何分僻遠の第一線地域で、裏山の山頂からはソ連軍部隊の銃剣術訓練の有様が望見されるという程のところであり、またもとよりドライアイス等の入手も不可能で、断腸の思いながら我等僚友の手により茶毘に付すことと決せられた。

職員代表、僚友数名、軍の案内者、および応召の僧侶と思しき軍服に袈裟がけの読経者等で、軍差しまわしのトラックにより御遠儀を後方のとある荒野の石積み台に運び茶毘に付した。立ち登る野辺の煙、僧侶の読経の音が空しく交錯し、滂だとして下る涙を禁じ得なかった。誠に惜しい春秋に富む人材が、あたりに人なき朔北の荒野に寂しく天上してしまったのである。

御本人の無念、親ご様の痛恨、察するに余りあるものがある。今数十年の歳月が流れ、今更という考え方もあろうが、当時の実情を知る一人として、大西誠一君の虚しい死を、波乱万丈の昭和史の一隅に加えてあげたいと思い、敢えて作詩したものである。

因に同君は私の一年後輩で、共に馬術部の一員として競った仲である。

北大予科生

大西誠一君追悼詩

木全 鹿風作

時局緊迫要請急	時局緊迫シテ要請急ナリ
支援飛行場急造	飛行場ノ急造ヲ支援スベシト
樺太凍土露営夢	樺太 ^{ツンドラ} ノ凍土 露営ノ夢
夜陰驚枯木燐光	夜陰 枯木ノ燐光ニ驚ク
大氣透明赤外強	大氣透明ニシテ赤外強ク
疫病蔓延生鮮乏	疫病蔓延シテ生鮮 ^{トモ} 乏シ
深夜忽発作心臓	深夜 ^{ミチマ} 忽チ心臓ヲ発作ス
応急処置不奏功	応急処置功ヲ奏セズ
骸衛兵交替僚友	骸 ^{カバネ} 衛兵トシテ僚友ヲ交替セシム
燭光微揺死臭充	燭光 ^{ロウソク} 微カニ揺レテ死臭充 ^{カス}
鴉大群殺到幕舎	鴉ノ大群 ^{バクシヤ} 幕舎ニ殺到シ
長夜譁譁奇声囂	長夜 ^{ウツクツ} 譁譁トシテ奇声 ^{カミビス} 囂シ
荒野石塁茶毘葬	荒野ノ石塁 ^{ダビ} 茶毘 ^{カキ} ノ葬リ
応召僧侶読経空	応召ノ僧侶 読経モ空シ
可惜春秋散僻遠	^{アキラ} 可惜 春秋 ^{ヘキエン} 僻遠ニ散ル
欲加昭和史一隅	昭和史ノ一隅ニ加エント欲ス

謹みて故大西 誠一君の霊に呈す 平成5年12月8日

卒部 30 年

原 重一（昭和38年卒部）

馬術部を卒業して30年が過ぎました。『あっ』という間でした。馬には縁がなくなりました。東京OB会で、年1回馬事公苑で乗馬会を行っています。これに初期の頃、参加した記憶があります。その後は出張先で、いいところをみせようと観光地やリゾートで乗ることもありました。80年代の後半にはアメリカのリゾートで何度か馬に乗りました。馬場ではなくて、2時間くらいの遠乗りです。リーダーが先頭で10～12、3頭がのんびりひとまわりしてくる感じ。半日のコースやお弁当を持参する一日コースもあるようです。勿論、馬場でも乗っていましたが……。しかし学生時代のような乗り方は出来ません。

同期の連中は、堀川は定期的に乗っているようですが、他は恐らく乗っていないのでは……と思います。ところで彼等ですが、市川と岡田は札幌、恩田は群馬県の太田、東京組は志水、堀川、宮崎、実吉そして小生。そうそう田中さんも東京。全くお会いしていませんが……。小出は大阪だし、清水は確か3年前からウルグアイかどこか南米。今年中には帰国の予定。

比較的旅行する機会が多いために、各地で時々皆に会っている。ウルグアイまでは無理だけど。

S38組は、東京OB会でも、わりに集まりはいい方だと思う。清水が帰国したら、皆に声をかけて、できたら夫婦で札幌を訪ねたいと念じている。

小生は、時々札幌には行くが、なかなか馬場や部室までは訪ねられない。場所も変わったし、勿論、われわれの子供たちの世代が現役だから、どういう『つきあい』になるか分からない。でも『馬』を通して共通項はあるから、ウマク楽しめるのではないかな。今から楽しみにしている。

1994 1 7 記

○各ストーブメーカー
○家庭用品
○プラスチック用品
○カーペット
○ファンシーグッズ
○厨房用品
各種とりそろえてあります。

株式会社 **平田金物店**

札幌市北区北18条西4丁目
TEL 716-7536
747-7616

卒部にあたって

荒瀬 匡宗

OB及び関係者の方々へ

大変お世話になりました。あたたかい助言や激励に心から感謝致します。

在部生のみんなへ

目標を見失わないでください。

ぼくたちはいつまでも仲間です、必要なときは何時でも呼んで下さい。

これから入部し、この部報を手にした人たちへ

是非一度、共に酒を酌み交わし馬術部について語りましょう。

岡部 靖子

去年の9月「ほんの1か月くらい」のつもりで入院した。しかしそれ以来、手術、転院を経てなんと現在（平成6年5月）も入院中。だから私にはこれが最後の試合だ、と思ったこともなければ最後の練習だ、と思う日もなくすべてが消えてしまったのだ。私に「卒部」という実感が未だにないのはそのせいかもしれない。卒部とは昨日までの現役の自分を終えて、これからはOBとして現役部員をいろいろな形で助け支えていくこと、と私もずっと思ってきた。特に私は副将でありながら後輩達に借りばかり作って、これは私が良い成績を残すことで返そうと思っていた。それらが何一つ実現していない私は卒部とは名ばかりであった。それどころか今もなお、後輩達から励まされている有様で、全く立場が逆である。そして後輩のみならず私はなんと先輩にまで今だにお世話になりっぱなしなのである。

考えてみれば、周りを見渡しても私ほど先輩に迷惑をかけ、手こずらせていた部員はいなかった様に思う。その中でも一番私の被害を被った？と思われる1つ上の先輩方が今東京にいらして、病院にも何度も来て励まして下さっている。これは何かの因縁、いえいえ、本当に感謝せずにはいられない。

何だか話が変な方向にいったしまったが、とにかく現役を離れて月日がたつにつれて、私から馬術部という烙印は消えるどころかますます濃くなって容易に消えそうにない。東京在住のたくさんのOBの方に本当に励ましていただき、これほど馬術部という人の繋がりを感じたことはありません。そして札幌からお手紙を下さったり、上京の折に訪ねて下さる先輩、後輩、そして同輩の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

いつか必ず、本当の意味で卒部して何かの形でお返しします。

佐土谷 昌良

『継続は力なり』

卒部してからンか月がすぎたというのにまだ自分の中での馬術部を消化しきれていない。思い出すには痛すぎて直視できない。

OBの方や後輩や同輩や関係者の方からの目を無視したとしても、自分がなさけなくて仕方がない。どんなにか多くの馬や人を傷つけてきたか、それに対し自分は恩返しどころか自己満足さえもできなかった。申し訳なさと共に消え入りたい気持ちだが、やってきたことは絶対に消えはしないし、未来につながっていく。

現役のみんなには、できるだけ早いうちから目標を視界に入れた全体像を持ち、そのために「確実な」努力をして欲しいと思う。

上に書いたことと反するようですが、多くの優しい気持ちを知りました。ばんえい競馬の馬を見ても涙が出るほどいとしいと感じます。

名前を挙げきれませんが、私達にほんの少しでも関わって下さった方々に心からの感謝を申し上げます。

八木 聡

卒部にあたって思うこと

①馬が好きだったら馬術部を続けてほしい。

馬術が好きだったら馬術部を続けてほしい。

馬術部が好きだったら馬術部を続けてほしい。

馬は素晴らしい生き物です。パートナーシップをこれほど強く感じるスポーツは他にはないし、このことを知っている仲間が、こんなにもたくさんまわりにいるじゃないですか。

②試合に勝つことを考えるのはやめた方がいい。

まずは馬に乗ることを楽しむこと。勝つことを考えると馬に乗ることは義務となり、チームで勝つとなれば個人が犠牲になってしまう。そのことで見えなくなることは多く、そして重大だ。

③クラブと学校は両立すること。

クラブは飽くまで課外活動である。クラブだけを一生懸命やって学校を顧みない人間は、自分の事しか考えていない。彼らの言い分は、自分はこんなにクラブの事を考えてやっているのに、だろう。彼らには、学校と両立している人の努力を考えることはできない。自分が学校に行かない甘えを、他人に押し付けているだけだ。

④バイトには行きたいやつだけが行け。

クラブの現状として、バイトは重要なウエイトを占めている。馬に対する義務感からバイトに行くことは大切だが、それを感じないやつまで従わせるのは、根本的な問題の解決にはならない。クラブは自分を鍛える場であり、他人を仲間だといって従わせる場ではない。(個人的な意見として、バイトに行かないやつは他人に甘えていると思う。)

自己・他己紹介

《4年目》

荒瀬 匡宗

ま、いいか。人生長いし。

☆

☆

荒瀬兄の家は手稲です。だから毎日、くるま通いをしています。毎朝毎朝大変でしたが、最近ちょっと家が近くなったという噂も聞きます。あくまでうわさですが。

兄は「おにいちゃん」のような人です。怒る時には厳しく怒りますが、親しみやすく何でも話せるような気になります。時々意地悪をしますが、後で必ずフォローを入れる所に奥深さ(?)を感じます。こんな文章ではとても語りつくせない兄のことを知るには、お酒の席が一番でしょう。女子同席ならなお良いですね。

四年間どうもお疲れ様でした。

岡部 靖子

ずいぶんとおちゃらけてはいたけれど、実は「最後にはちゃんと決めてやる」ってひそかにひそかに思ってた。でも最後までおちゃらけたままで終わっちゃった。あーあ、きっと一生私のイメージってこうなんだろうなあ……。

☆

☆

尊敬できる人物の一人であり、よく可愛がられ、また、けなされました。僕が一年生の時の、岡部さんの誕生日コンパが思い出されます。部では、技術面、精神面、生活態度までもいろいろとご指導頂き、今の僕がいるのも、先生の（岡部さんの）おかげです。今年も見てください。あんまり自信ないけど！

姉となると緊張しますが、姉が笑うと、僕もつられてニコニコしてしまいます。

佐土谷 昌良

五稜郭タワーのコンピューター占いの結果、次のように出ました。

★あなたの性格★

あなたは、慎重深く物静か様の有るが心の中に強い根性を秘め常に冷静に振る舞う性格。誠実さが有り内面的に音なし様の有るが心の中には創造力と我慢強さを添えたタイプ。知密な考と細かい神経を持ち小さな事にも良く気が付き人々に愛されて人生を送り将来を期待され一生懸命に努力する性格の持主。

★運勢&結婚★

あなたは、何事にも飽き易い性格が有り激しい社会生活にもまれ弱い面が有り強い根性と忍耐力を養う必要が大切で有る。人の暗示に掛かり易く誘惑に乗り易い面があり金銭関係に失敗が多い。仕事に対しても根性と粘り強さが人生を左右する。外交方面より事務関係に大成運あり。取引事には特に注意が必要あり自己中心的に走る事は危険あり失敗事には直ぐ立ち直れない精神的な弱さ有り人生は波乱が多了い理想に走る事なくコツコツと努力すれば人生の後半にある程度の地位に付ける。

★金運&財運★

人生全般に金銭的な更け冷め有り辛抱強さで多少は蓄え成るが余り身に成らず苦勞が多了

船越 実和子

白紙に戻そう
すべて
写真立てには何もいれずに
そうして
まず
落ち着いて
心を見つめよう
目指すもの
大切にしたいもの
ゆずれないもの
私の真実
手にいれる
必ず

☆

☆

船越姉には大変お世話になりました。普段の人使いの荒さはさておき、コンパの時には僕に優しく微笑みかけながら目で脅してSSをなみなみとついでくれます。そこで逃げようとでもしたら大変です。「私のお酒を飲んでくれないの」と言いながらもう一杯ついでくれます。しかし、姉の評判は優しい人とされています。みんな目を覚ますのだ。

こんなことを書いたらまた飲まされるかな。

船越さんは北^{エンゼ}遥くんのお母さんみたいです。そろそろ本当のお母さんになっちゃうかもしれません。

八木 聡

〈好きなもの〉

カラッと晴れた空 海に沈む夕日

幸せそうな人々 休みの日の穏やかな空気

〈好きな食物〉

照り焼きチキン

鶏肉ときのこのトマト煮

〈最近読んだ本〉

『マディソン郡の橋』

『スローワルツの川』

『エディソン郡のドブ』

☆

☆

本当によく気が付くきれい好きの人であり、夕当後厩舎の隅の方の掃除を始めるのは、いつも八木さんでした。そして、足ふきタオルがたりなくなると、なぜか家から大量のタオルを持ってきてくれるのも八木さんでした。洗濯ものが入っているらしいビニール袋を家に持ち帰る姿をよく見かけたという人もいます。どんな人と結婚し、どんな父親となるのか気になる八木さんです。

馬術部への入れこみようは心服するばかりです。普段は怖くて近付き難い存在の兄も時々人格が変わり、あぜんとするほどおちゃめな人と化します。だからといって怖くない訳ではありません。近付き易くなる訳でもありません。ますます、距離を置いてしまうのです。

《 3 年 目 》

黒崎 雅人（主務、工学部応用化学科）

皆さんは誤解していらっしゃるようですが、ごく普通の人間です。本来大変真面目な性格です。ある一部分をのぞけば……。

☆

☆

兄のそばにいと、いつもおちつかない

それは、兄がいつも何か行いたそうに私を見るからなのでしょう

でも兄は、困った時には、つい相談したくなる

誰にとってもたよりになる兄なのです

でも、でも兄のいうことがすべて正しいとはかぎりません

兄はよく真面目な顔をして人をだまします。

あれは私が免許とりたての頃。いつも馬運車の後ろでゆられNHPへの道順もおぼろげだった私は、助手席のくろ兄をたよりに出発しました。しかし気がつくと兄はいねむりしてまして、「あとはずっとまっすぐ行けばいい」と教えられていた私は、危うく自衛隊へ突入するところでした。

そしてあれは長岡さんからの帰り道。「あとは道なりだ」と教えられた私は、ふたまたに分かれた道を目前にし、兄に助けを求めましたが、兄はまたもや眠ったままでした。このあと、環状通りが札幌に円を描いているということを、兄の御蔭で実際に体験することができました。

いつも眠ったフリをして私に道を覚え込ませてくださったくろ兄、感謝してます。
もう一言いいですか？くろ兄は、最近ますますあやしくなっていて、おもしろいです。

西村 雅夫（会計、後援会、農学部農業土木科）

前年はどかんと景気良くできませんでした。

今年は「笑門来福」を信じて、前向きにやっついこうと思っちょります。

☆

☆

気がつくとドーンドーンというふしぎなかけ声とともに西兄はすもうたいそうをおどってしました。きよたの中に別世界が広がりました。みんなギョッとしたけれど西兄はいちだんと大きな声でドーンドーンと足どりもかろやかにすもうたいそうをくりひろげたのです。

そんな西兄が気がついた時、恋におちていました。恋におちて西兄はいっそうイキイキ元気良くおどりました。けれども気づいた時恋人は遠い異国へ旅立ってしまったのです。そして西兄はびんぼうめしを食べざるをえませんでした。西兄の部屋はいっそう×××になり女性は立入禁止、あえて入れば死にいたるというぐあいにりました。それでも西兄は密度の濃い学部に通い、ひとりで長岡さんに行ったりしたのでステキな夫になるとみんな口をそろえて言っています。

百聞は一見にしかず。

兄のことを知りたい人は兄に実際に触れてください。かめばかむほど味の出るスルメのような人です。

深部 ちさ（副将、経済学部経営学科）

雨上がりの草刈りが嫌いです。

なぜなら、虫がたくさんいるからです。

特にイモ虫の類は大嫌いです。

☆

☆

深部姉は3年目で紅一点。練習中姉の声でおこられてもいまいち迫力に欠けるが、姉はおそらく部で一番強い、と僕は思う…。姉のPOWERで部をひっぱって行って下さい。

3年目の紅一点、深部姉は馬に乗っているときは勇ましく目つきも鋭いです。でもいつもにこやかに笑っていてその笑顔は他大学にもファンを作ってしまうほどさわやかです。しかし深部姉の真の姿は……。

とにかく今年もがんばってください。

松原 貴史（主将、工学部応用化学科）

今、主将となって、苦痛と不安の一年が始まってしまった。最上級生なんていやだ、下級生に戻りたいと思う、今日、この頃です。果たして僕は、めでたく卒部を迎え、後輩どもからあの人はすごいなあといわれるのであろうか？

☆

☆

みんなの夢（そうでない人もいるかも？）である全日で入賞したえらい人。兄の馬上での腰使いは独特で誰にも真似できない。試合前でも冷静な兄は、いつ緊張するのでしょうか。

きっと、チョコビひげが似合うだろうなあ。

《 2 年 目 》

大原 里麻子（文化、文学部行動科学科）

ようやく馬にはなしかけられるようになりました。でも、キュロット・チョーカでボストンベイクに入ることはもはやできなくなりました。

☆

☆

鼻にかかった声、丸くにやけた顔が特徴の彼女だが、時々、ぼけをかまし、部内をなごやかにしている。また、やる気は、一年のときから、人一倍であり、それをこれからにつなげ、がんばってもらいたい。期待している。もっとみんなを引っばってくれ！

姉は裏ワザをたくさん知っています。入部当初は「本当はいけないんだけど…」と言いながら教えてくれた姉の数々のワザにどれだけ助けてもらったかしれません。

そんな姉が1年生のお返しコンパの時、翌日の物理のテストのため途中で帰ろうとしたM原兄をつかまえ、何とかのがれようとする兄の口にムリヤリビールをそそいでいた姿を見た私はたとえSSの一升ビンを持って飛び回ろうと、姉の足もとにも及ばないのだと思い知ったのでした。

鈴木 照夫（作業、農学部農業機械科）

“ おいおいおい、まじっすかあ？おいおいクソだよクソ。”

と言っていた僕ですが、すすきのからも手を引き、大学生の模範となっています。授業はすべて出席し、先生の言ったことは、すべて頭にインプットされており、ノートはバッチリ。テスト前には、みんなにあてにされている日々を送っています。また、馬術部ではみんなに信頼され、下級生からは熱い視線を注がれています。

☆

☆

「おいおいマジかよ」「めんどくせーな」

一年の頃は、文句の一等賞だった彼が、今年になってから急に出世したようです。2年目を引っばってってくれる頼もしい奴なりそうだなと期待させてくれますが、甘い部分がかくしきれずにポ

ロポロでてくるのもかぶらぎくんらしいかな。

これからも、おいしいものいっぱい食べさせてもらってがんばってね。

鎗木兄は、甘えん坊の仔犬のような可愛らしさを持っておいでです。困ったときの「ふーん…こまったなあ」というあの鼻にかかったくぐもった声音など、不謹慎ではありますが、まことに「可愛い♡」のです。（おやおやおや）そんな鎗木兄ですが騎乗時の、真っ直ぐ伸びた背で持って安定した様子で堂々と馬を駆る姿は、りりしく「馬術は貴族のスポーツなのかも知れないなあ」と思わせられます。鎗木兄は大変お育ちがよろしくっていらっしやるのが、日常からも伺えるのですが、「やはり、所詮馬術部」と思ってしまうこともございます。齢十九まで、良家のご子息としてお育ちになったと思われるのですが、「大学に入って、馬術部に入った」こともまた、影響しないでは済まなかったという不幸を体現しておいでなのかもしれません。あの部室で、辞った後に雑魚寝してしまうのでは…ねえ。

河合 由枝（後援会、工学部応用化学科）

馬術部における自分の存在価値について考えることがよくある。

馬たちにとって自分が必要な存在でありたいと思っている。

☆

☆

第一印象　ちっちゃいなあ…（思ったまんま）

第二印象（後輩をしかっているのを見て）しっかりしているなあー。

第三印象　（しばらく悩んでいた時期もあったがふっきれたのを見て）やっぱり愛の力やなー。

いい奥さんです。

米家 直子（副務、教育学部行政学科）

いろいろこまったことをしました。

それからナマイキです。

岡部さん、ここからスキだよ。

☆

☆

いつも明るく、馬術に対してとても情熱的な迫力のある先輩です。

米家姉はいつも一生懸命でパワフルです。姉を見てると元気が出ます。しかし姉はいつか異国へ旅立つ身なのです。姉がいなくなってしまうなんてさみしくていやなのですが、さらに行先がインドであるという点も気にかかります。

なぜならインドにはウソつきが多いからです。（『さるのこしかけ』さくらももこ著 参照）やさしい姉がしょうもないインド人にだまされ身も心もボロボロになってしまう姿を想像すると心が痛みます。

……といいつつ姉の家にあやしいお香のかおりを充満させ“インドへのあこがれ”のポルテージをあげてしまっている私でした。

杉野 正之（飼料、教養部理Ⅱ系）

つらい時や落ちこんだ時は大声で歌を歌います。他の部員が何と言おうと、馬がいやがろうと、ひたすら歌います。そうやって気を紛らわします。ただ、何も考えていない時はアニメソングを歌います。そんな時は客赦なく殴って下さい。

☆

☆

とてもイイヒトです。ある意味で。

入部当初の兄の印象は「しぶい」だった。しかしいつの頃からか「もしかするとこの人はオモシロイ人なのではないだろうか」という疑いが私の心に芽生えはじめた。しかし、とある部室の飲み会で兄とたくさんお話をした結果、その疑問は溶けるように浄化され「兄は“変態”なのだ」という確信を得るに至ったのだった。よろこばしいことだ。兄は変態だが皮ジャンの件があるため、私は一生兄に頭があがらない。

竹田 智子

賞典女はたのしいです。ロゼットの数を数えるときにはうれしくてしかたありません。とくに、山禮女のときは、息子の山本禮志さんと仲良くするといいいことがあるかもしれない。最近はNEWバージョンで札幌メダル商会女というのもあります。

接待女もたのしいです。お菓子選びに欠かせないのは黒あめとエリーゼ。お茶くみOLの気持ちも味わえます。とくに昼めし時は茶を欲する人々があまりに多すぎて茶も、そして自分もきれそうになります。そんな時は芝生で転がってみよう。すっきりしますよ。

食当隊長はめちゃくちゃハッピーです。一日当たりの食費の配分は均等に。おわんと茶わんとお皿と台所用品のすべてに北大マークをつけときましょう。帯広ではわかさより一丸のほうが安くていいですね。

☆

☆

とあるノーザン使役の時、私は姉の後任として、接待女をしました。やり慣れない事をしたのと元来ズボラで大雑把で気の効かない私はてんでこまいでした。こんなお仕事を楽々こなせる姉は、しっかりもので繊細でよく気の付く人なのだと思います。一番に曳き馬に行っておげたり、朝必ず馬に「おはよう」って馬房をのぞいてあげる、とっても優しい私の大好きな姉です。

あと、安くて良いものを探す名人でもあります。

鶴見 直大（馬具備品、文化、工学部電気工学科）

最近少し性格が変わったような気がする。この気持ちの変化は何だろう。おそらく移行してごっつ

い真面目になったからだろう。後活動範囲が少し広がったからだろう。後、馬のことを考えるようになったからだろう。後、一人で酒を飲む日が多くなったからだろう。後、家でHEAL THE WORLDを聴いて泣くことがあるからだろう。このmonotonousな生活に終止符をうつため僕は外国に行きたい。タイへ行ってみたいなあー。こんな夢みたいな話はさておき、まあ今は障害馬術でも読むか… なんのこっちゃ

☆

☆

鶴ちゃんという線が細い華奢な男の子です。この姿を見ると高校時代のアイドルだったこともうなづけます。

鶴ちゃんという普段は普通を装っているけれども、酒を飲むとわけが分からなくなり、次の朝には部室の二階で寝ている。この寝顔を見ると高校時代のアイドルだったこともうなづけます。

鶴ちゃんという馬上での腰の動きが独特です。この腰を見ると高校時代のアイドルだったこともうなづけます。

鶴ちゃんというビートルズが好きです。これはアイドルにあこがれているに違いありません。

鶴見よもっとがんばれ。

何やねんとか、はいはいとか、何かとあしらわれている毎日ですが、鶴見さんは実はいろいろ心配してくれて、やさしいです。でもお酒の席でお説教するクセに次の日忘れちゃうのはちょっとひどいです。

保坂 晴美（記録、理学部高分子学科）

よく変り者といわれるが、私が変り者なのではなく、まわりのみんなが変り者なのである。自分と考えるちがう者をわらいとばすのは民主主義社会の考えなおすべきところだ。もっと意見のちがうものを尊重しなければならない。そうでなければ日本は世界にははばたけないと私は思う。

☆

☆

保坂姉は面白い人だという噂はかねがねきいていましたが私が初めてなるほどと思ったのはノーザン使役の車に共に乗っていろいろ話をした時でした。その時は確か歯医者話をしていたように思います。保坂姉は歯医者でいつも眠ってしまうのだそうです。眠ってしまうと歯医者さんはしょーがないので口を開ける器具を口にいれます。それは子供に使う器具らしいです。姉があまりにも毎回眠るので歯医者さんは学習してしまいました。今では歯医者で台に横になると姉はただちに開口器を入れられるそうです。

保坂姉は『ほちゃ』という愛称を持っておいでです。一年目の私が二年目の保坂姉をこの愛称でお呼びすることはありませんが、何とも、保坂姉に似つかわしい音を持つ愛称だと思わずにはいられません。からかわれてムキになっても、困っても、何処か物柔らかな保坂姉には、実に実に、似つかわしいと思うのです。枕の大きさのマシュマロを想像してください。これをつついたらな、きっと『ほちゃっ』とすることでしょう。つぶれるでもなく、はね返すでもなく、保坂姉然とするだろうことを私は確信して致しております。保坂姉はいかにもいかに、そのような方でいらっしゃるのです。

《 1 年 目 》

笠原 裕子（記録、教養部理Ⅰ系）

私が座右の銘としているのは、エーリヒ・ケストナーの次の詩です。

教訓 実行以外、道はない。

『人生処方箋』という詩集の中に納められているものですが、この簡明さが気に入っています。何かに取りくむとき、先々に出遭うだろう障害を考えて、頭が痛くなってしまうなんてことは、私にはよくあることなのですが、そのままぐずぐずと停滞していても前には進めません。とにかく、まず一歩。片足を踏み出せば、残る片足もつられて動いてくれるものですが、この一歩を踏み出せないでいるとき、私が唱えるのは、E・ケストナーの『教訓』です。朝、起きたくない倦怠感につかまっているとき、草刈りが面倒でたまらないとき、私は『教訓』を唱えて、「とにかく先ず、起きよう」とか、「とにかく先ず、鎌を持とう」とか思って、初めの一歩を踏み出します。

自分だけが並外れて人より劣っているように感じられて涙するなんてことはよくありますが、それでも、続けていくと、知らぬ間に向上するものだと思っています。信じて頑張ります。

☆

☆

変。入部当初は、か弱な感じがして、2、3日でやめるのではないかと思った妹であるが、今は部にはまりきっている。行動もおもしろいが、馬との会話をきくのもおもしろい。以前教養部で妹がきれいな格好をしてさっそうと歩いていたのを見たとき、かわいいじゃんと思った。が、部にきたら、また変だと思いました。

まじめなようで、実はよくわからん。数いる一年目の中でもとくによくわからん。彼女を理解する者がこの部に、いや世界にどれほどいるだろうか。

北村 養（馬具備品、教養部理Ⅲ系）

馬術部に入ってからとみに目立ってきましたが、私は二面性をもっているようです。何でもやってやろうというやる気のある北村Aと、全てがどうでもよくなっている北村Bです。変に明るいとときと仏頂面のときがあるのはそのせいだと思います。皆さん、Bをみかけたらどうぞ声をかけてやってください。

☆

☆

がんばってつづけて下さい。

けがをしたのに辞めなかったのはえらいと思います。

もう少し人の良さを失くして大人になったらもっといいと思います。

高岡 直介

自分を文字で表現することはできない。

☆

☆

基本的にもの静かでおとなしいけど、話すときにニコッと笑うのがとってもかわいい。

世の中にはいろんな誘惑が多いけど、高岡クンが道をふみはずさないことを祈ってやまないයි。

誠実な人です♡

中田 一糸記（作業、教養部理Ⅰ系）

まってる、たけし！

☆

☆

酔ったら暴れるわ、他人とけんかはするわ、しょうがないやっちゃんーと思っていたが、どうやらそれだけではないようです。

作業にバイトにはたから見ててもよく頑張ってるなーと思う今日このごろ。

皆さん！もうちょっと彼をじっくり見てみましょう。秘めたる何かをもってるかもしれませんよ、ひょっとしたら…。

彼は正直で不器用な人です。やる気も研究心も1年目では一番ですが、得意文句の「でも」の多さに反発を買いやすい損な奴です。

しかし、やはり時には、カン違い大王という異名にふさわしく、皆を困らせてしまうことがあります。

でも、もと陸上部の彼は、ながぐつでカマボコをとび、スティープルさえまわってしまう黄金の足をもっています。

中村 晃史（衛生、教養部理Ⅰ系）

目を覚ますと、肩がはずれていたり、なぐられたような傷があったり、時には入院していたり、ただ前日のことはじゅんじゅん覚えていないんだから、困った困った。そんなことがよくありませんか。お酒には気をつけましょう。それから、いろいろな人にいろいろな事をしたようですね、ごめんなさい。

☆

☆

ひと言でいえばまるで“おっさん”のようである

もうひと言でいえば、まだまだ“ガキ”である。

1年目のリーダー的存在。

その甘いマスクとは裏腹に、激しやすいHEARTをもっている。

彼を制する者は、いない。

西浦 正人

愛と平和があれば他に何もいらないう。と思う。

☆

☆

彼は沢田研二ばりの流し目で巷の男達をメロメロにしている罪な男です。
もっと硬派になれ！！

きっかけは、やっぱりお返しコンパ。真実の自分を見つけた彼ですが、今もって、街をさまよっています。

沼田 のぞみ（部報、教養部文Ⅱ系）

とうとう某兄に言われてしまいました。

誰もが気づいていながらあえて口にしなかった言葉…。

「〇〇してる」（文字をあてはめるのではありません。声に出してそのまま読んでください。）
ああ、もう私は絶対馬術部のジンクスを破った女として部の歴史に名前をきざみたい。

え？ どういうジンクスかって？ いやあ、だから“馬術部に入った女の子はみんな太る”っていう…。

☆

☆

ほのぼのほのぼのほのぼの…。飲むとキビしいけれど、ほのぼのしているぬまぬま。「さすが」
と思わせてくれることも、ほのぼのとやってのけてくれる彼女はギャロップに夢中です。

ヌマタは1年女子の中で1番フツウの女の子だと思っていた。君が初めて本性をあらわにしたあのコンパの日まで。しかし私は辞めたヌマタと接触したことはあまりない。何故なら彼女はいつも先輩にからんでいるからだ。だいたい「ヌマタのかたわらにSSあり」と言われているように彼女はキケンな女だからあまり近づかないようにしている。アルコールの入っていないヌマタはとってもいいやつだ。気をつかってくれるし親切だ。馬に乗るのもうまい。手入れは迅速かつ美しい。私は彼女を大変尊敬している。

が、しかし、アルコールの入っていないヌマタとはクリープのないコーヒー、かがみもちのない正月、皮ジャンを着ていないS野兄のようなもので、やはりアルコールが入ってこそヌマタは完全なるヌマタとして君臨し、完成されるのだとおもう。

林田 絵里子

以前乗馬クラブで乗っていたときは馬が動かず馬上で悔しい思いをする夢をよく見たものでした。しかし馬術部に入ってから見るのは何故か軍手の夢ばかりです。

☆

☆

彼女は博愛主義者です。

わらじ虫なんか見ると、そりゃーもう「かわいい♡」と言っては指でつまみ上げ、手のひらをあ

るかせてじーっとみつめています。

昆虫（とくに黒い虫）の大嫌いな私には到底マネできません。

それから彼女は18条付近に住みつく馬術部員には考えられないような極東に住んでいます。雪の降る朝は部室にたどり着くまでに埋もれてしまうのではないかと心配です。

やさしそうでクラブの業務はきちんとなし、成績もいいそうですが、一年目の女子ではもっとも恐い存在だという噂を耳にしたことがあります。

これからどうなるかはわかりませんが将来いい雰囲気のある先輩になるのではと期待しています。

丸山 悦男（飼料、教養部理Ⅲ系）

入部のとき女の子が多いと喜んでた僕、今はかわいい馬達にかこまれて幸せに過ごしています。“運は天にあり、鞭は手にあり、騎道は心にあり”こんな（アホらしい!?）セリフを意味ありげに言えるくらい、早くうまくなりたいです。

しかしそのためには、考えるとショートする頭脳と昼飯ぬきという生活を改良しなくては…

これは僕の永遠の課題かもしれないけど。

☆

☆

まるはよく動く。あっちへ行き、こっちへ来ては「ひえ〜」と言って頭をかかえている。

まるはよく働く。ものを頼むとしていることをほっぽらかしてしまうが。

まるはよくしゃべる。が、一言も理解できないことが多い。

鳥みたいな目をしないで、穏やかな目で、がんばれ、まる！期待してるよ。

マルちゃんこと丸山くんは実に“いい奴”です。これは、ドンパ、上級生、OBのいかに問わす、丸山くんに対して評価するところのものです。非常に一途に、ひたむきに、つぶらなポチのような瞳でもって物事にとり組む丸山くんは“いい奴”です。

丸山くんは決して要領が良いわけでも、手際が良いわけでもなく、優秀とは言い難いタイプではあるのですが、何にも増して尊い、熱心さでもって物事にとり組むので、多少のことは許せてしまいます。願わくば、その肩の力みが、余裕になりますように。Fight!

勝木クリーニング

北営業所

札幌市北区北20条西5丁目

☎ 011-716-2381

宮坂 陽子（衛生、薬品、教養部理Ⅲ系）

私は我ながら上品な少女です。私に一番似合う形容は「かれん」…あるいは「たおやか」かしら。お酒はあまり飲めません。潔癖症の気があるために部室の汚さに悩まされている毎日です。…後につづく他己紹介に備えてこれくらいフォローしておきましょう。

昨日、馬栓棒で頭を打って死ぬかと思いましたが、今日も生きています。

☆

☆

彼女は、ありとあらゆるコンパに出ボツし、飲む！飲む！ひたすらに飲む。そしてつぶれ、朝、部室を見ると、目をあけて眠る彼女の姿が…

あまりに部にはまりすぎている彼女のゆくすえがあんじられる今日このごろ…

馬術講習会ですでに入部していた彼女に「入るんやろ？」とやわらかな京都弁で話かけられ、肩を抱かれた僕は、その美貌に目をうばわれた。しかしその美貌も、過度のアルコールによって目覚める人格“ミヤサカZ”をかくすための仮面であることに気づくのになかなか時間がかからなかった。

つきあいの悪い僕としては、あらゆる飲み会という飲み会にすべて顔を出さずにいられない彼女に敬服するばかりだが、部室を寝ゲ○の海にして朝着がえに入ってくる僕らをうんざりした気分させたり、ふんでもけってもK原が耳もとでどなっても起きなかったくせに、7時半すぎに起きてきて「なんで起こしてくれへんの～！！」とさわいだりすることはやめてほしい。

村田 拓自（副務、文化、教養部理Ⅲ系）

馬術部に入り、これまでとは生活様式が一変し、最初はとまどいましたがだいぶん、この環境に馴染だつもりです。

作業やアルバイト等しんどいこともありますが、中途半端で終わりたいくないと頭では考えています。

☆

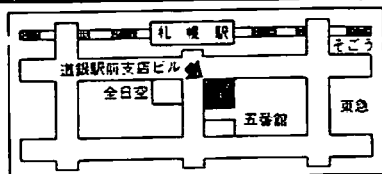
☆

あ、村田です。あ、あ…で有名な無口なむっちーでも、馬に対しては多弁なのをあなたは知っていますか？

彼はちょっと口数の少ない人なので何を考えているのか、いまいち分かりません。一生懸命話かけてもまともに答えてくれませんが、たまに会話がつづく気分はさながら新馬がレンガを跳んだ時の調教者です。ねえ、Let's Relax、だよ。

札幌駅前コンタクト

- 受付時間 10:00A.M.~6:00P.M.
- 定休日 日曜・祝日
- 学生割引あります。健康保険証をご持参ください。



〒060 札幌市中央区北4条西3丁目 道銀駅前支店ビル7F ☎(011)222-2122

世界でたったひとつの

あなただけのジグソーパズルを作ってみませんか。

恋人の写真やペットの写真などお気に入りの写真、イラストなどポストサイズからA3相当までオリジナルジグソーパズルが中1日で仕上がります

8円コピー・大型ゼロックス
ラミネート加工・大判、小型
カラーコピーすぐ出来ます

コピー・ワン
札幌市北区北19条西4丁目
電話 746-4856

あなたと御家族の健康をお守りする

わかば薬局

本店 地下鉄北18条駅前
札幌市北区北17条西3丁目 TEL716-4233
エルム店 札幌市北区北17条西4丁目 TEL737-7951
メディカル18 札幌市北区北18条西3丁目 TEL726-0533

(社)日本ベストコントロール協会 (社)日本しろあり対策協会 会員

建築物ねずみこん虫等防除業 北海道知事登録

株式会社

北海道防疫サービス



ネズミ・害虫など有害生物の防除、殺菌消毒・除草の施工・管理請負

本社 札幌市北区新琴似6条11丁目9-20 ☎(011)761-2656
札幌営業所 ☎001
苫小牧営業所 ☎053
苫小牧市日新町1丁目2-13 ☎(0144)73-3970

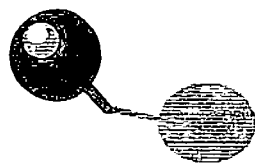
馬と話がしたいなあ。



あなたと話したい競馬があります。

札幌競馬場

○学生、生徒または未成年者は、勝馬投票券を購入できません。



谷地浩税理士事務所

税理士 谷地 浩

事務所／札幌市中央区大通5丁目 昭和ビル7F

☎ 011-222-2341

FAX 011-222-2343



馬という。

NORTHERN HORSE PARK

ノーザンホースパーク

Riding in Hokkaido

社台ファームは競走馬の世界において、日本一を誇っています。馬ひとすじに、懸命の努力を積みかさねてきたおかげだと思います。けれども、馬ひとすじというならば、馬術とも取り組まねばならぬと考えました。馬術を中心とした公園がノーザンホースパークです。いちど馬に乗ってみませんか。馬車に乗って夢を見てみませんか。

伝統を支える

シャダイターキン、アンバーシャタイ、ダイナカリハニー…。輝かしい名馬たちを生み出した「社台ファーム」。その伝統と実績を受け継いだ「ノーザンホースパーク」は、我が国唯一の「人と馬の自然公園」です。

パーフェクトな乗馬施設

●初心者から上級者まで本格的な乗馬練習ができるライディングエリア、●インストラクターの指導で気軽にレジャーライディングが楽しめるビギナーショートコース、●初心者と馬の調教のためのロンジングエリア、●夜間照明も完備され、雨や雪の心配がいないインドア乗馬場、●白樺やカラ松の林を抜ける2kmの外周乗馬コース、●トレッキングエリア、●80頭収容可能な厩舎。

クラブハウスで「デリッシャス」

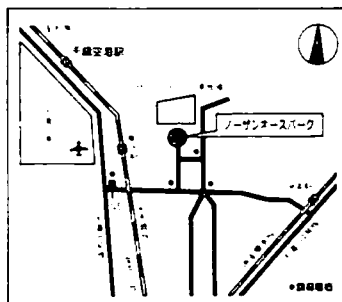
●8年連続リーディングサイアーに輝く社台ファームの名馬にちなんで名付けられたレストラン「ノーザンテースト」、新鮮な食材を目の前で調理するオープンキッチンが自慢、●澄みきった空気と緑がいっぱい、ドリンクメニューを自室に揃えた屋外テラス、●ロビー、スーベニアショップ、サウナ、シャワールーム、プライベートルームも完備。

自分が感動するために

●全天候型テニスコートが5面、どなたでも気軽にプレイできるミニテニス用のコートが2面、計7面を完備、●公園内を自由に走ることができるレンタル自転車も用意、●お好みの食材をお好きなだけチョイスできる約300人収容可能なバーベキューハウス。

ドラマの主人公のように

●公園内を一周する馬車コース(2人乗り、10人乗り、2階建て20人乗り)、●夏には鮮やかな色彩のフッシュローズガーデン、●世界中のハーブが育てられているハーブガーデン、●馬たちが水を飲む噴泉池、●思いつき森林浴が楽しめる緑の楽園。



ノーザンホースパーク

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7

開園時間

夏期間(4/29～10/31)9:00～21:00

冬期間(11/1～4/28)10:00～18:00

※夏期間は16:00以降の入場料金が無料となります。

※冬期間は終日入場料金が無料となります。

※12/31～1/1は閉園いたしますので、ご了承ください。

■千歳空港から無料バス(中央バス)で約10分。

ノーザンホースパーク・ライディングクラブ事務局

〒059-13 北海道苫小牧市美沢114-7 ノーザンホースパーク内

TEL 0144-58-2116～8

FAX 0144-58-2377

お申し込み
及び
お問い合わせ先

内外産エンバク販売

株式会社

大谷哲也商店

大 谷 哲 也

札幌市中央区南一条西二十八丁目

電 話 代 表 (011)611-2531 番

編集後記

ほくしん〔北辰〕・・・ 北極星

一時はどうなることかと思いましたが、皆様のご協力のおかげでこうして何とか発行にこぎつけることができました。4月発行予定と言いながら半年以上も遅れてしまい、関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを、誠に申し訳なく思っております。

OBの方々も参加し、楽しんで頂けるような部報を考え、今回OBの皆様に広く原稿をお願いしたところ、予想以上に多くの方々から原稿を頂くことができました。OBの方々が卒部なさってからも、馬術部や部報に対して大きな関心を持っておられることを知り、部報の持つ意味と重要性を改めて感じました。この部報を読まれて、ペンを取ってみようと思われた方がいらっしゃいましたら、是非こちらの方までお寄せ下さい。また、部報に対するご意見、提案などもお寄せ頂ければ幸いです。次号をより良いものとする為にも、参考にさせていただきます。

最後になりましたが、斎藤部長、岡田監督をはじめ、原稿を心よく書いてくださったOBの方々、現役部員の皆様、なかなか仕事のはかどらない私たちを励まし協力してくれた同輩のみんなに、心からのお礼を申し上げます。

編集責任者 落合 直美・沼田 のぞみ

表紙 林田 絵里子

部報 第39号

平成6年11月発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

☎ (011) 716-2111 内線5597

☎ (011) 737-1626 (直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

